



2026年4月



標茶町



I. はじめに	
① 森林ビジョン策定の目的	P.3
② 森林ビジョン検討委員会概要	P.4
③ 実施スケジュール	P.5
II. 森林基礎調査概要	
① 標茶町森林の現状	P.7
② 標茶町林産業の現状	P.51
③ インタビュー結果概要	P.60
④ 現状の課題と進むべき方向性	P.65
III. 第1回森林ビジョン討議会概要	P.67
IV. 第2回森林ビジョン討議会概要	P.69
V. 第3回森林ビジョン討議会概要	P.71
VI. 標茶町森林ビジョン	P.78
VII. 用語集	P.86





I. はじめに

- | | |
|-----------------|-----|
| ① 森林ビジョン策定の目的 | P.3 |
| ② 森林ビジョン検討委員会概要 | P.4 |
| ③ 実施スケジュール | P.5 |

II. 森林基礎調査概要

- | | |
|-----------------|------|
| ① 標茶町森林の現状 | P.7 |
| ② 標茶町林産業の現状 | P.51 |
| ③ インタビュー結果概要 | P.60 |
| ④ 現状の課題と進むべき方向性 | P.65 |

III. 第1回森林ビジョン討議会概要

P.67

IV. 第2回森林ビジョン討議会概要

P.69

V. 第3回森林ビジョン討議会概要

P.71

VI. 標茶町森林ビジョン

P.78

VII. 用語集

P.86





標茶町は、将来における標茶町森林や林業・林産業のあるべき姿・目指すべき姿を地域の方々と共に考え、共有することを目的に、2050年における標茶町森林ビジョンを、地域の木材加工事業者・森林組合・種苗業者・森林管理事業者・教育機関・高校生と共に考え策定致しました。

今回策定した、標茶町森林ビジョンは、標茶町の25年後、50年後といった長期的な森林の将来像を見据え、自然と共存する標茶町らしい森づくりの在り方などの方向性を示す独自の計画で、標茶町森林整備計画を補完する位置づけにあります。

誰が見てもわかりやすい森林ビジョンを策定する事を目指し、地域の木材加工事業者・森林組合・種苗業者・森林管理事業者・教育機関・高校生等多くのステークホルダーに参加いただき、多様な観点で意見を出し議論を行った事で、このたび、「みんなの森」という標茶町らしいビジョンをつくる事ができました。ご協力いただいた、森林ビジョン検討委員会メンバーをはじめとした多くの方々に、深く感謝申し上げます。

森林ビジョンをきっかけに、一人でも多くの方が標茶町森林や林業・林産業について興味・関心をもっていただけますと幸いです。





- 森林ビジョン検討委員会は、下記メンバーで構成され、テーマごとに全3回の討議会を実施し、森林ビジョン検討を行いました。

	対象者		実施時期	テーマ
第1回討議会	森林組合	・ 標茶町森林組合様	2025年8月21日	林産業を未来につなぐ
	木材加工事業者	・ 有限会社北海林産様 ・ 株式会社不二木材様		
第2回討議会	森林組合	・ 標茶町森林組合様	2025年10月6日	林業の魅力向上と 次世代の担い手確保
	種苗業者	・ 有限会社谷口種苗農園様		
	森林管理事業者	・ 明盛建設株式会社様		
第3回討議会	森林組合	・ 標茶町森林組合様	2025年11月14日	脱炭素・生物多様性・防 災の観点から未来の標 茶町森林のあるべき姿 を考える
	高校生	・ 北海道標茶高等学校様		
	教育機関	・ 京都大学フィールド科学 教育研究センター北海道 研究林様		
オブザーバー		釧路総合振興局 産業振興部様 釧路総合振興局 森林室様 北洋銀行様、道南森づくりの会様(第2回)、野生生物総合研究所様(第3回)		
事務局		標茶町役場、北海道共創パートナーズ		



■ 下記スケジュールで、標茶町森林ビジョンの検討を進めてまいりました。

		2025年						2026年			
		7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月以降
森林ビジョン検討 委員会立ち上げ準備		→									
森林ビジョン 検討委員会	第1回 討議会		8月21日 ★								
	第2回 討議会				10月6日 ★						
	第3回 討議会					11月14日 ★					
全3回の討議会を踏まえ 森林ビジョン最終案作成							→	→	→	完成 ★	
地域の方々へ 森林ビジョンを発信											→



I. はじめに

- | | |
|-----------------|-----|
| ① 森林ビジョン策定の目的 | P.3 |
| ② 森林ビジョン検討委員会概要 | P.4 |
| ③ 実施スケジュール | P.5 |

II. 森林基礎調査概要

- | | |
|-----------------|------|
| ① 標茶町森林の現状 | P.7 |
| ② 標茶町林産業の現状 | P.51 |
| ③ インタビュー結果概要 | P.60 |
| ④ 現状の課題と進むべき方向性 | P.65 |

III. 第1回森林ビジョン討議会概要

P.67

IV. 第2回森林ビジョン討議会概要

P.69

V. 第3回森林ビジョン討議会概要

P.71

VI. 標茶町森林ビジョン

P.78

VII. 用語集

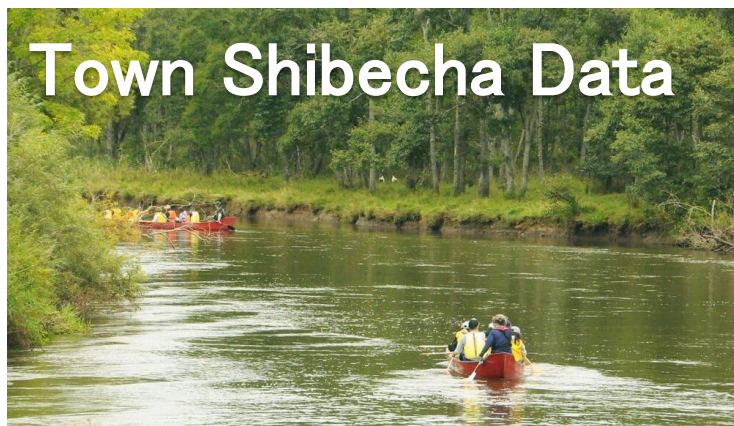
P.86





Ⅱ. 森林基礎調査概要_①標茶町森林の現状_標茶町データ

- 総面積のうち約54%を森林が占める標茶町は、釧路湿原等の国立公園や日本一の敷地面積を誇る北海道標茶高等学校を有し、豊かな自然環境がのこる、魅力あふれる町です。



Town Shibecha Data

人口
(2026年1月) **6,687人**

世帯数
(2026年1月) **3,553戸**

総面積 **109,937** ha
(1,099.37km²)

森林面積 **58,907** ha

森林面積の占める割合 **54%**

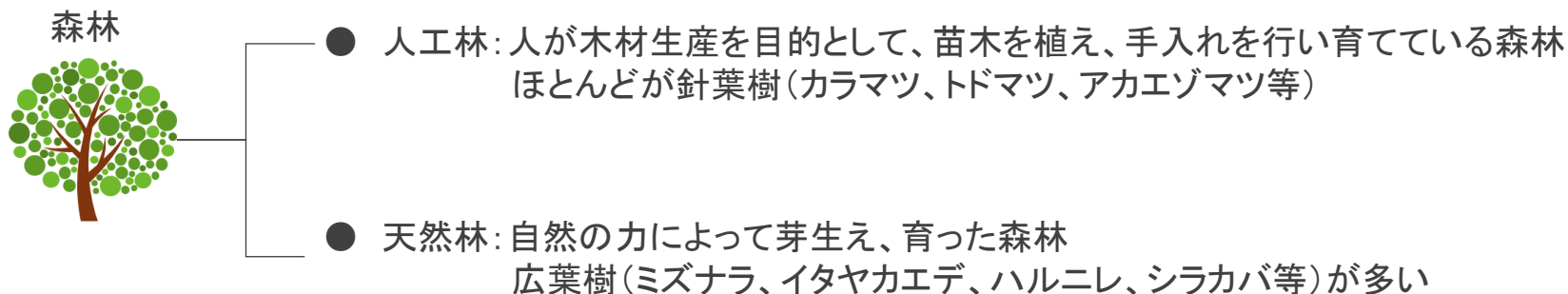




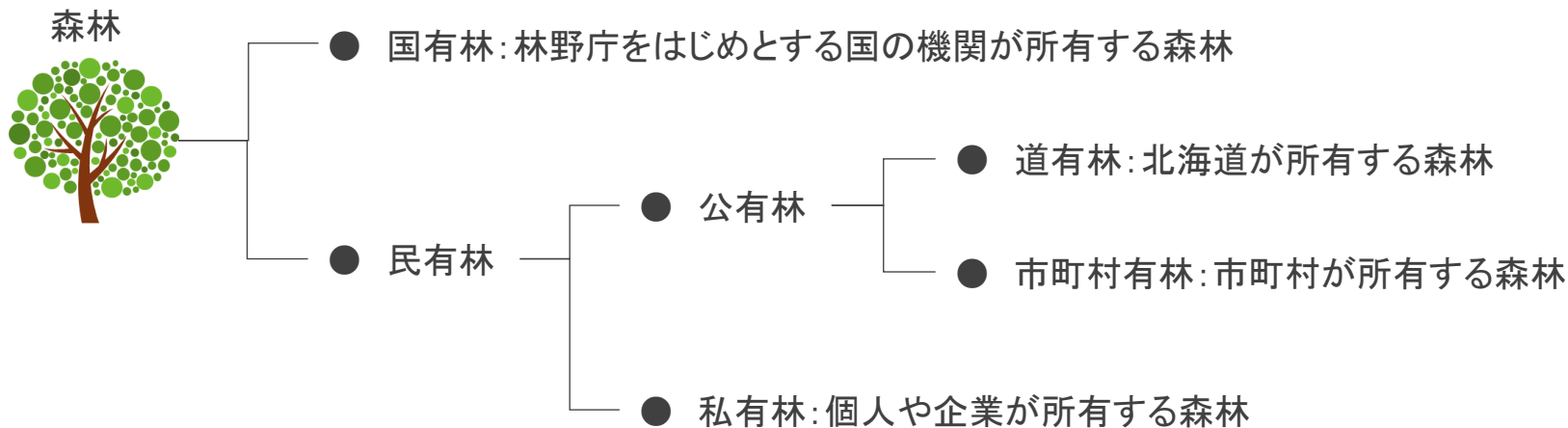
Ⅱ. 森林基礎調査概要_①標茶町森林の現状_森林の種類

- 森林は、その成り立ちによって大きく人工林と天然林の2つに分類されます。
- また、所有区分によって国有林と民有林の2つに分類され、民有林は都道府県や市町村が所有する公有林と個人や企業が所有する私有林に分類されます。

【成り立ちによる区分】



【所有による区分】

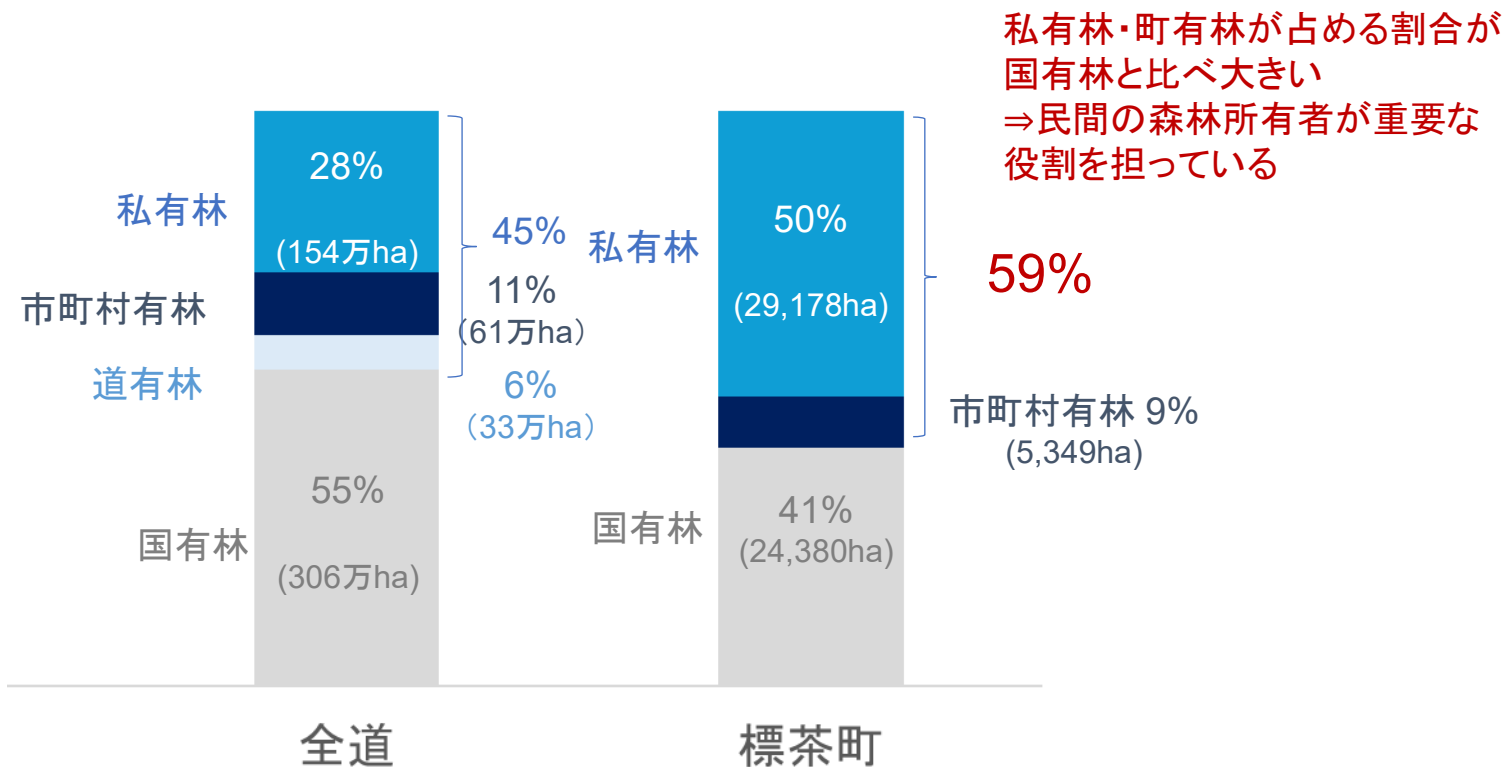




Ⅱ. 森林基礎調査概要_①標茶町森林の現状_所有区分別森林面積

- 標茶町森林は国有林が占める割合が全体の4割程度に対し、私有林・町有林が占める割合が6割程度と、全道平均と比較して大きい傾向にあり、民間所有者が森林管理において重要な役割を担っています。

所有区分別森林面積比較



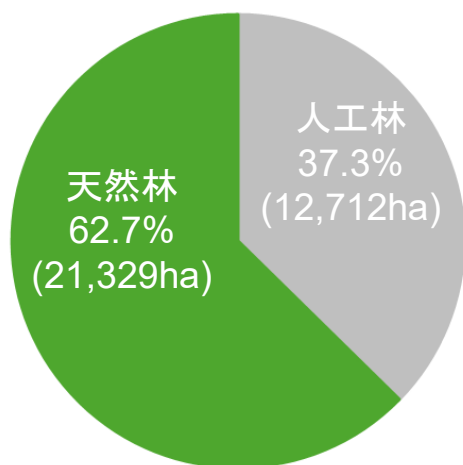
(出典: 森林・林業統計要覧2019, 平成29年度北海道林業統計, 標茶町森林整備計画)



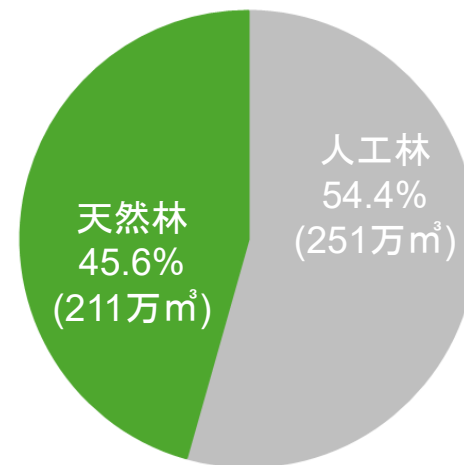
Ⅱ. 森林基礎調査概要_①標茶町森林の現状_森林面積・蓄積(人工林・天然林)

- 標茶町森林(国有林除く)の面積割合は天然林が人工林を上回っており、天然林の皆伐を行っている事が他地域ではあまりみられない、標茶町森林管理における大きな特徴となっています。

標茶町森林(国有林除く)の人工林・天然林別面積割合



標茶町森林(国有林除く)の人工林・天然林別蓄積割合



(出典: 森林クラウドデータをもとに作成)

- 皆伐: 森林の一定範囲の樹木を一度に全部または大部分を伐採する方法。
特に人工林で行われることが多いが、標茶町では天然林でも実施しており、大きな特徴となっている。



Ⅱ. 森林基礎調査概要_①標茶町森林の現状_樹木の種類

- 標茶町森林に生育する主な樹木は下記の通りです。
- 人工林ではカラマツの占める割合が高く、広葉樹のミズナラは地域事業者が製造し全国へ販売している木炭の原料として重要な役割を果たしています。

【主な針葉樹】

カラマツ

- ✓ 標茶町で最も多い針葉樹
- ✓ 木材としては強度の高さが特徴で、乾燥技術の発達により割れやねじれを克服し、建築として用途を広げている



トドマツ

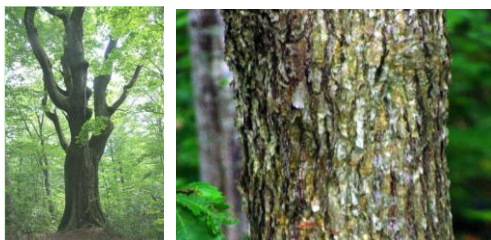
- ✓ 北海道で最も多い針葉樹
- ✓ 木材としては美しい白さや加工のしやすさが特徴



【主な広葉樹】

ミズナラ

- ✓ 北海道を代表する広葉樹
- ✓ 家具や床材に使われる事が多く、近年はウスキー樽の原料としても注目されている
- ✓ ナラは町木にも指定されており、地域において木炭の原料として活用されている



ハルニレ



シラカバ

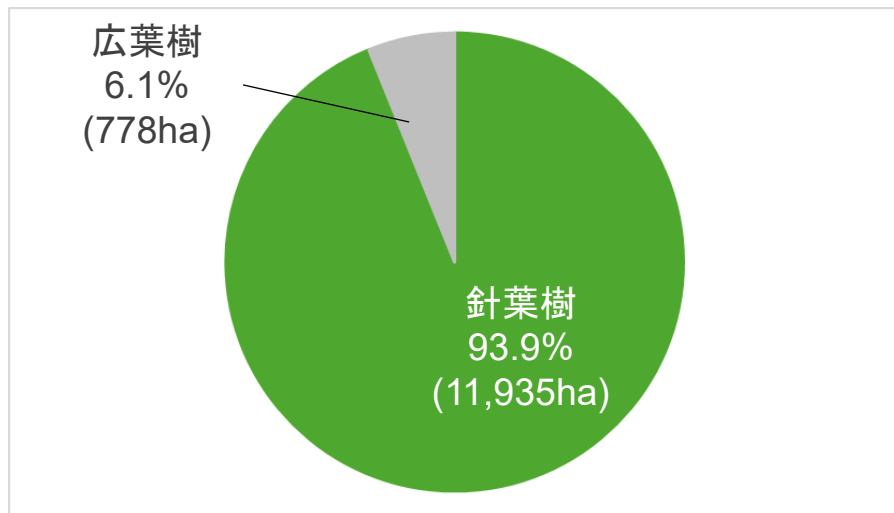




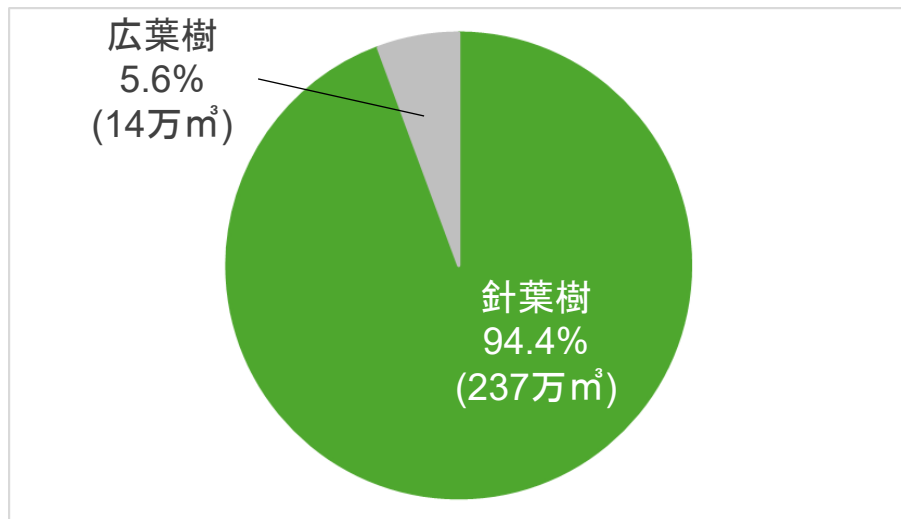
Ⅱ. 森林基礎調査概要_①標茶町森林の現状_森林面積・蓄積(樹種別)

- 標茶町人工林(国有林除く)における針葉樹の割合は面積・蓄積ともに9割超を占めています。

標茶町人工林(国有林除く)の針葉樹・広葉樹別面積割合



標茶町人工林(国有林除く)の針葉樹・広葉樹別蓄積割合



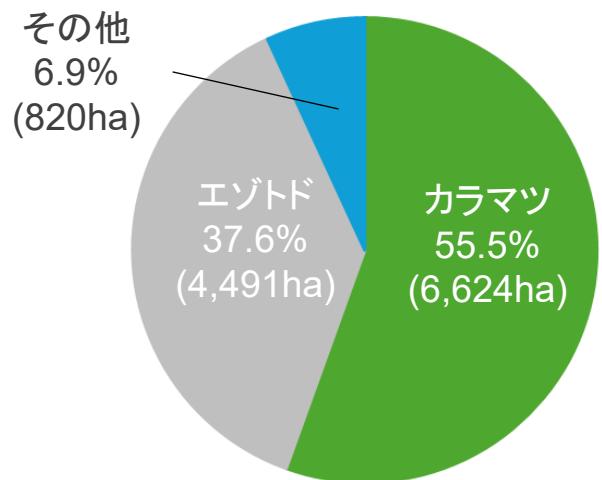
(出典: 森林クラウドデータをもとに作成)



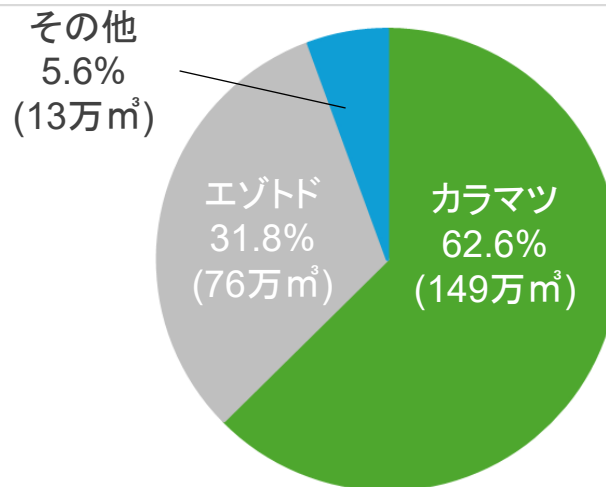
Ⅱ. 森林基礎調査概要_①標茶町森林の現状_森林面積・蓄積(針葉樹)

- 標茶町人工林(国有林除く)針葉樹における、カラマツの割合は面積・蓄積ともに6割程度と最も多く、ついでエゾトドが3割程度を占める構造となっています。

標茶町人工林(国有林除く)の樹種別(針葉樹)面積割合



標茶町人工林(国有林除く)の樹種別(針葉樹)蓄積割合



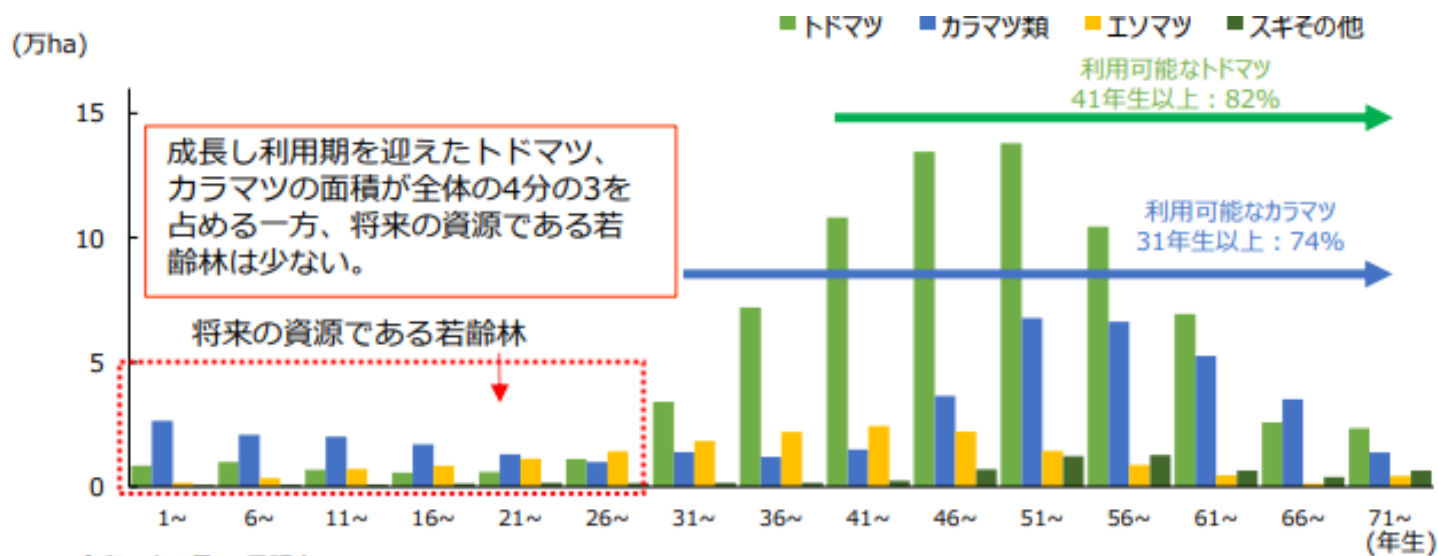
(出典: 森林クラウドデータをもとに作成)



Ⅱ. 森林基礎調査概要_①標茶町森林の現状_北海道森林が直面している状況

- 道内における人工林トドマツ・カラマツの3/4が利用期を迎えており、次の世代に豊かな森林を遺すためには、皆伐・再造林により若返りを図っていく必要がありますが、林業の担い手不足がボトルネックとなり、なかなか進んでいないのが現状です。

道内針葉樹人工林の齢級別面積



※令和5年3月31日現在

資料：北海道水産林務部「令和5年度北海道林業統計」をもとに作成

(出典：国土交通省 北海道の森林・林業2024)

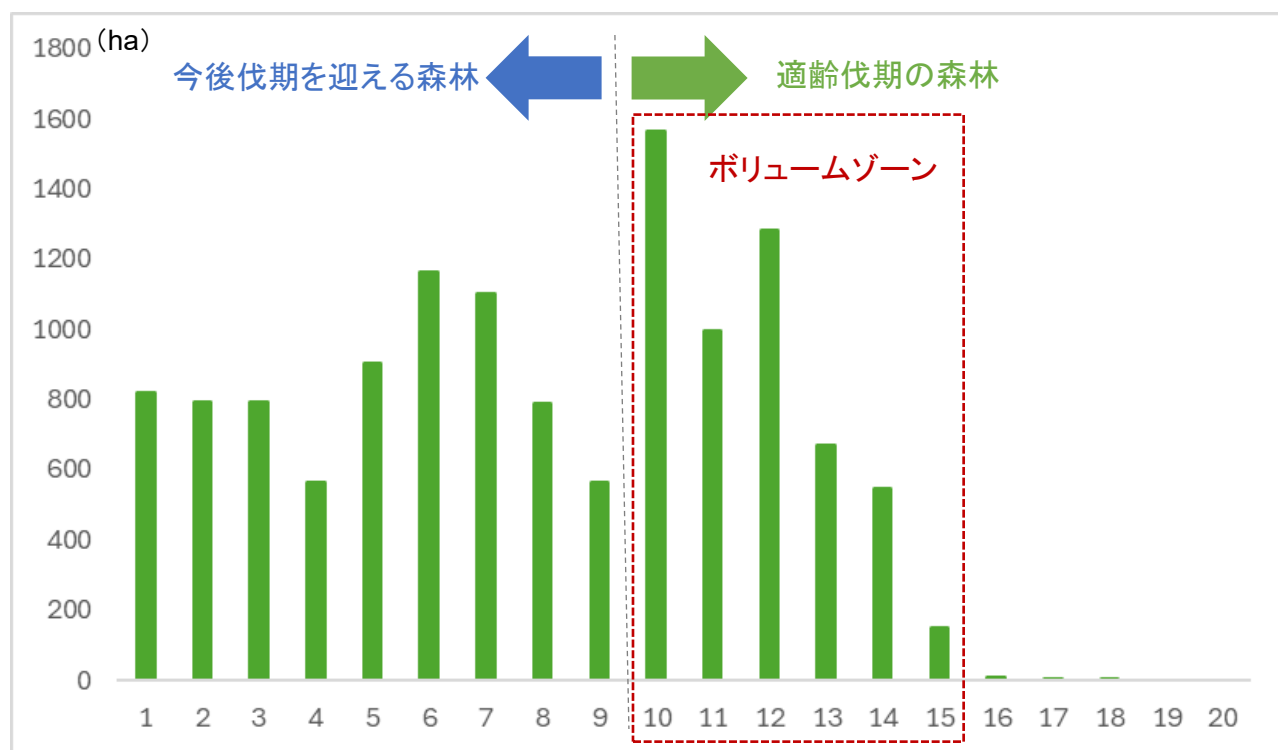
次の世代に豊かな森林を遺すためには
皆伐・再造林を進め、森林の若返りを図る事が必要だが・・・
林業の担い手不足がボトルネックに



Ⅱ. 森林基礎調査概要_①標茶町森林の現状_樹齢別森林面積(人工林)

- 標茶町人工林の森林面積は適齢伐期を迎えた森林ボリュームが多く、今後皆伐・再造林を更に強化していく事で、域内への木材安定供給と次世代森林の育成を進めていく必要があります。

標茶町人工林の樹齢別森林面積(国有林除く)

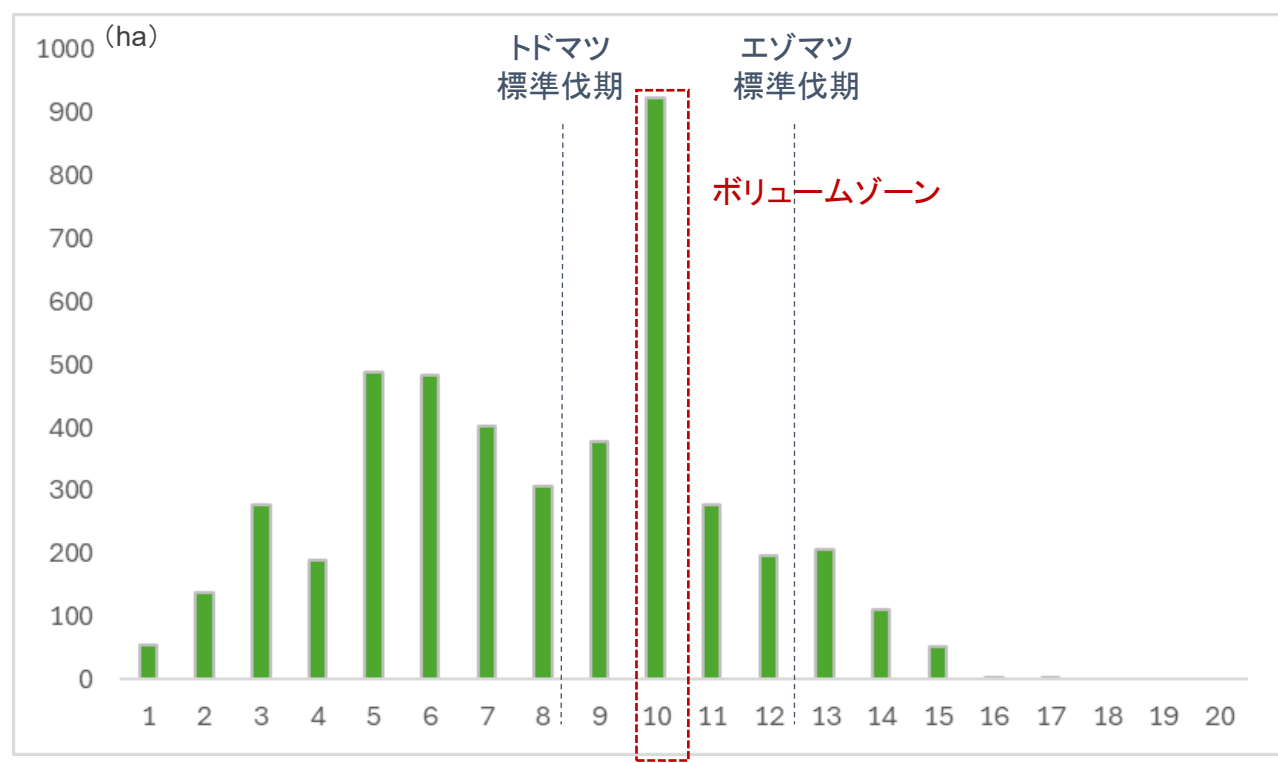


(出典: 森林クラウドデータをもとに作成)



- エゾトドの森林面積は10齢級にボリュームゾーンが集中しており、標準伐期に近いタイミングでいかに伐採を進め、同時に再造林を実施していけるかが課題となります。

標茶町人工林エゾトドの樹齢別森林面積(国有林除く)



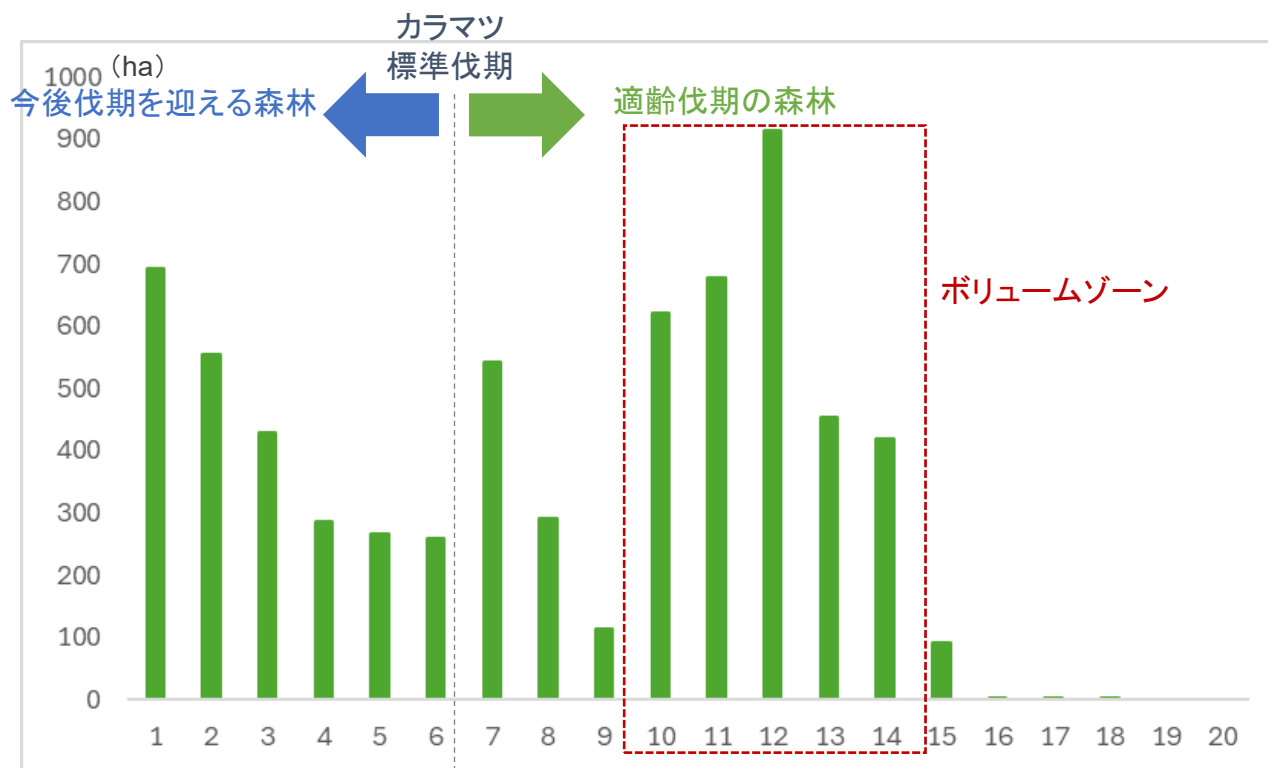
(出典: 森林クラウドデータをもとに作成)



Ⅱ. 森林基礎調査概要_①標茶町森林の現状_樹齢別森林面積(人工林カラマツ)

- カラマツの森林面積は標準伐期を超えた森林ボリュームが多く、早急に伐採を進めていく必要がある一方で、再生林により今後伐期を迎える森林は充実した量が確保されています。

標茶町人工林カラマツの樹齢別森林面積(国有林除く)



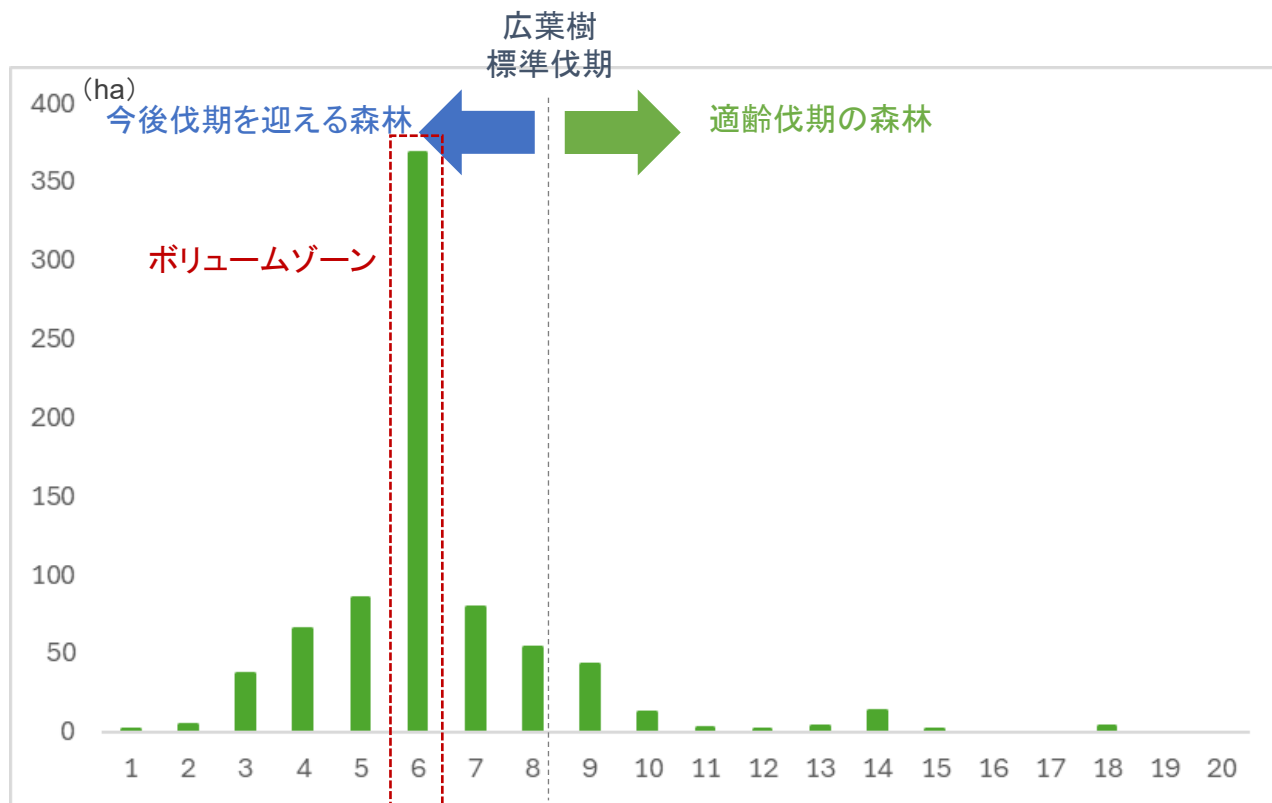
(出典: 森林クラウドデータをもとに作成)



Ⅱ. 森林基礎調査概要_①標茶町森林の現状_樹齢別森林面積(人工林広葉樹)

- 広葉樹の森林面積は6齢級にボリュームゾーンが集中しており、10年後に訪れる標準伐期に向け、いかに計画的に皆伐・再造林の準備を進められるかが重要となります。

標茶町人工林広葉樹の樹齢別森林面積(国有林除く)

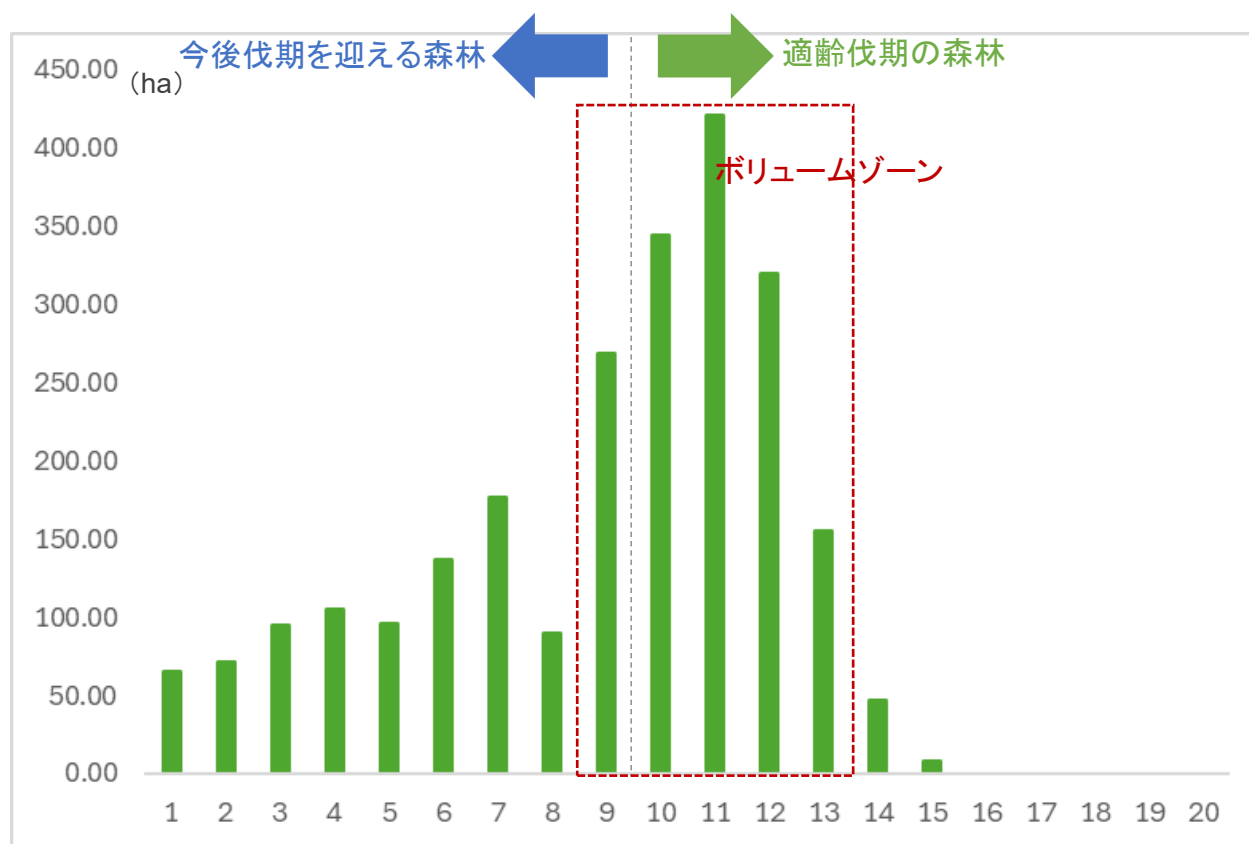


(出典: 森林クラウドデータをもとに作成)



- 町有林(人工林)の森林面積は適齢伐期を迎えた森林ボリュームが多い一方で、今後伐期を迎える森林の資源量は限られており、計画的な皆伐・再造林を強化していく必要があります。

標茶町人工林の樹齢別森林面積(国有林除く)

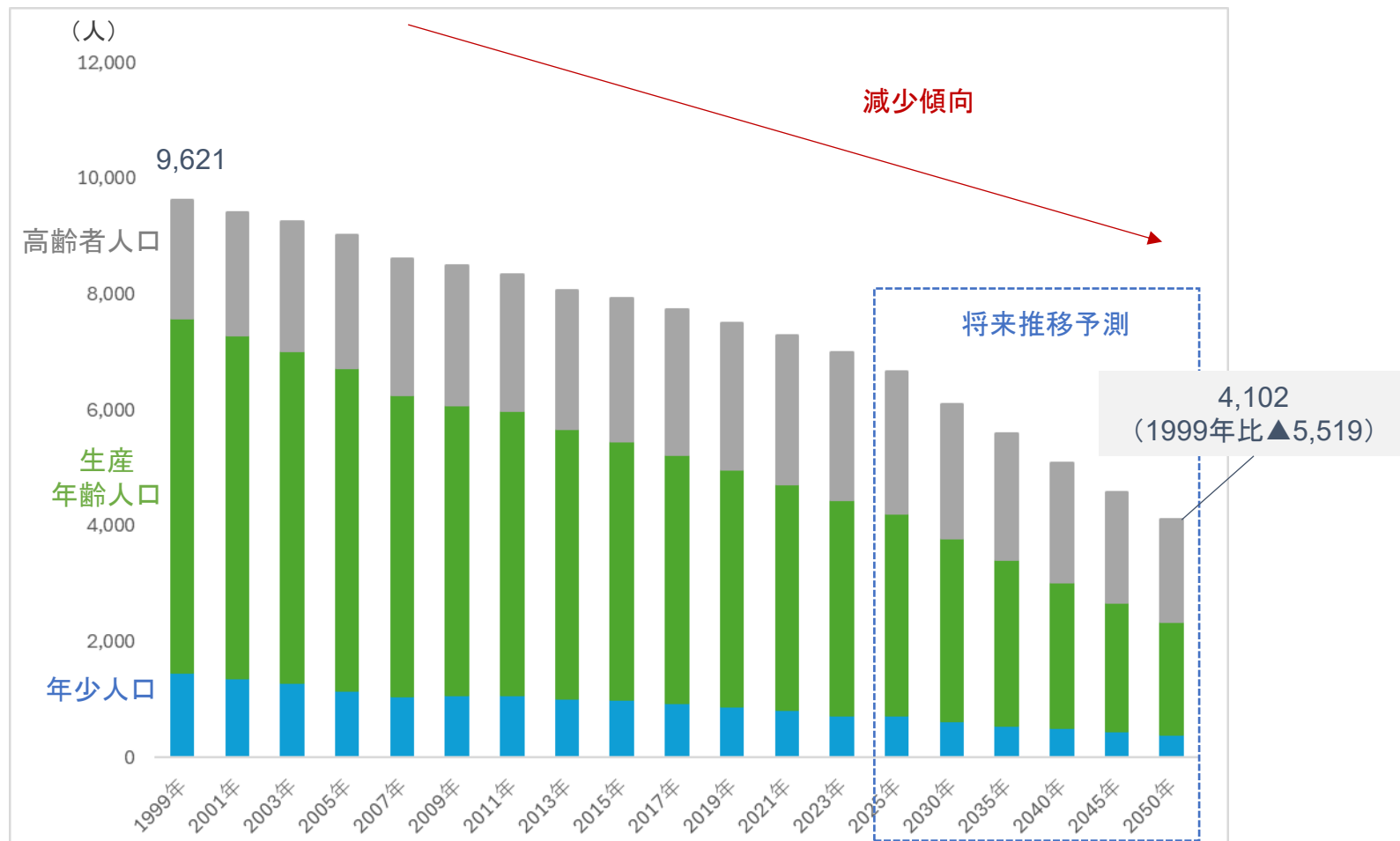


(出典: 森林クラウドデータをもとに作成)



Ⅱ. 森林基礎調査概要_①標茶町森林の現状_ 標茶町の人口推移

- 標茶町の人口は減少傾向にあり、2050年予測人口は4,102人と1999年の半数以下となる見通しです。

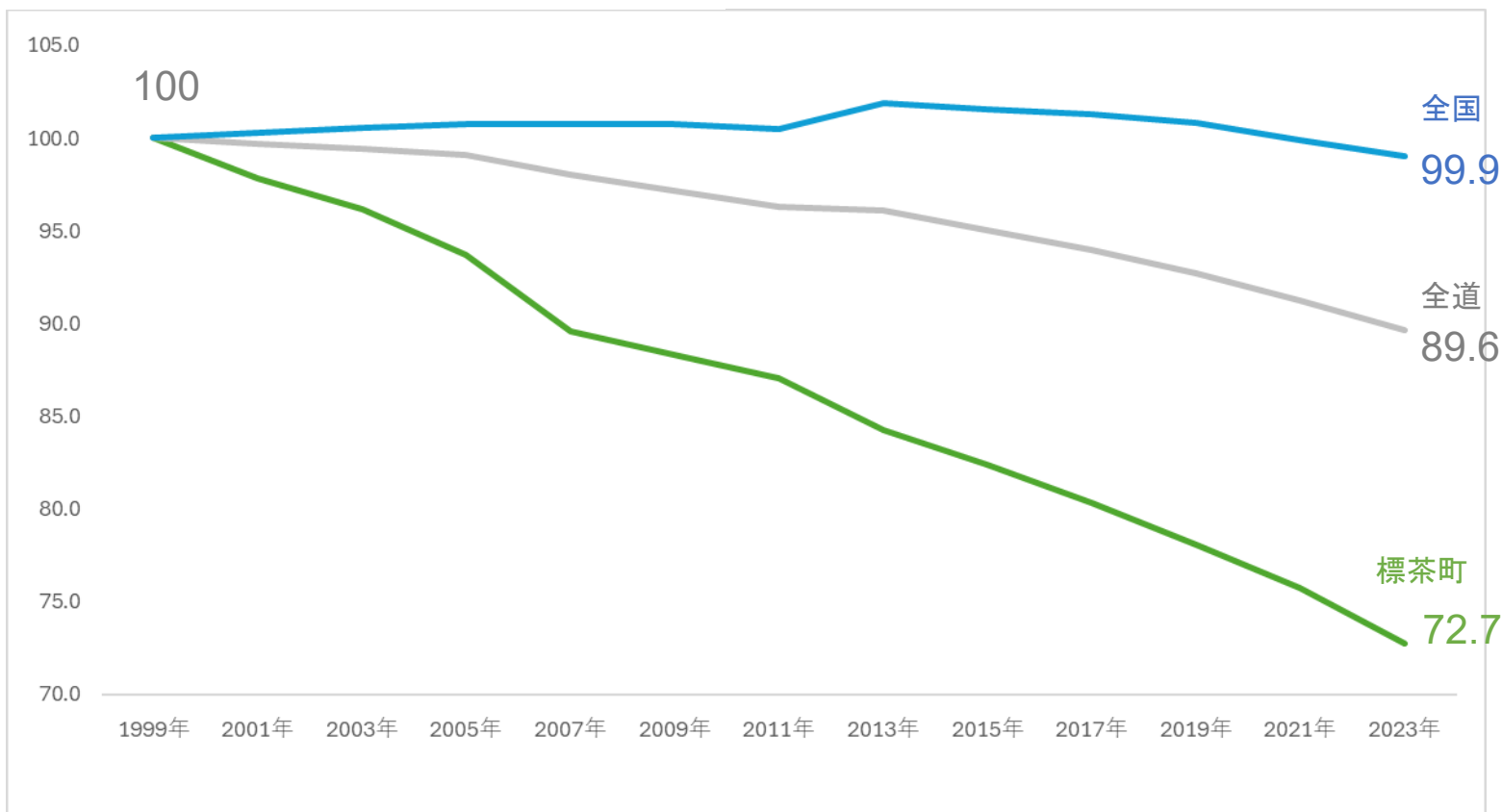


(出典:総務省 | 住民基本台帳等 | 住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数)



■ 標茶町の直近20年間ににおける人口減少は全国・全道水準と比べ早いペースで進行しています。

1999年を100としたときの人口推移

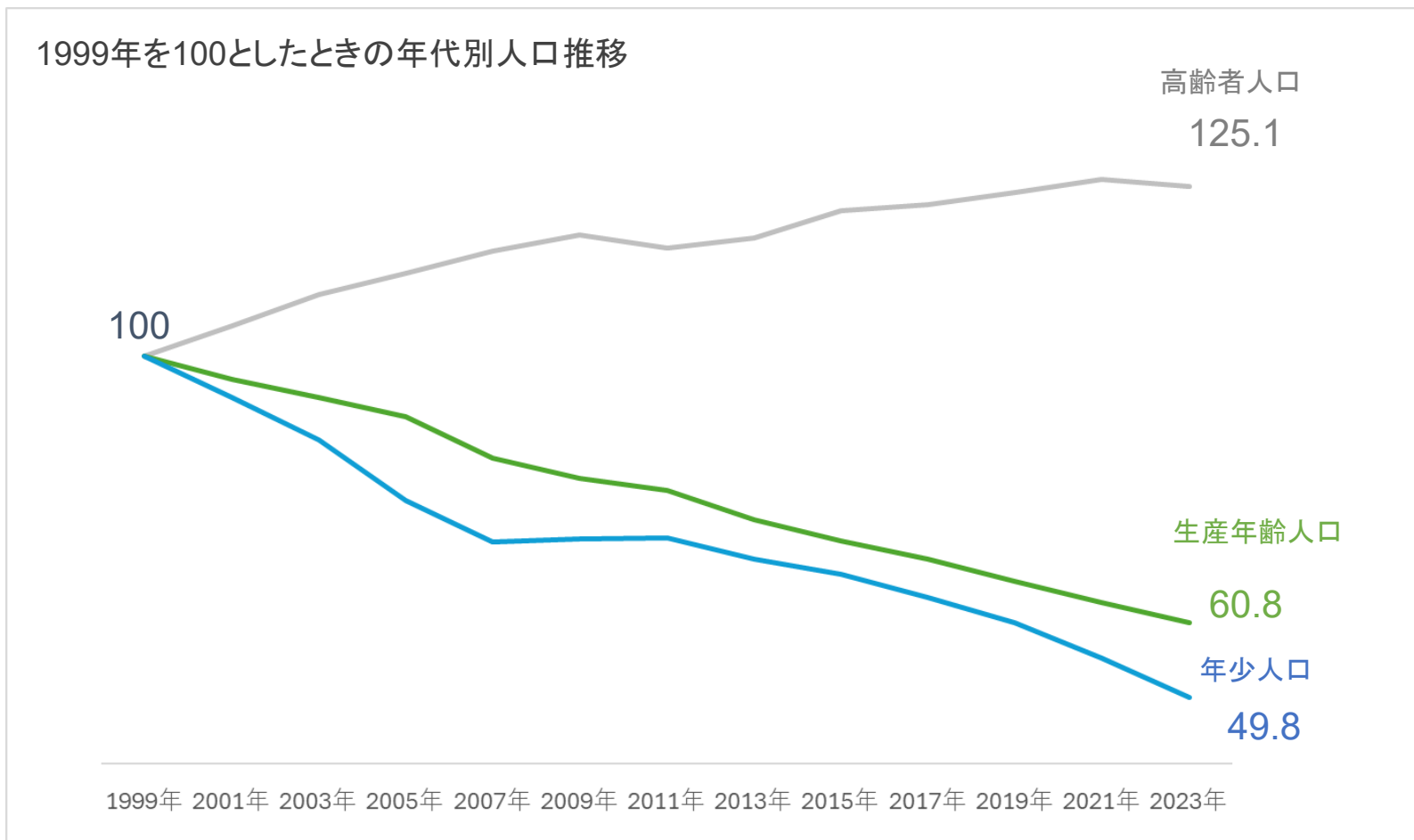


(出典:総務省 | 住民基本台帳等 | 住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数)



Ⅱ. 森林基礎調査概要_①標茶町森林の現状_年代別人口減少率

- 年代別人口推移をみると、高齢者人口が増加傾向にある一方で、生産年齢人口は1999年比でおよそ4割、年少人口は5割超減少しています。



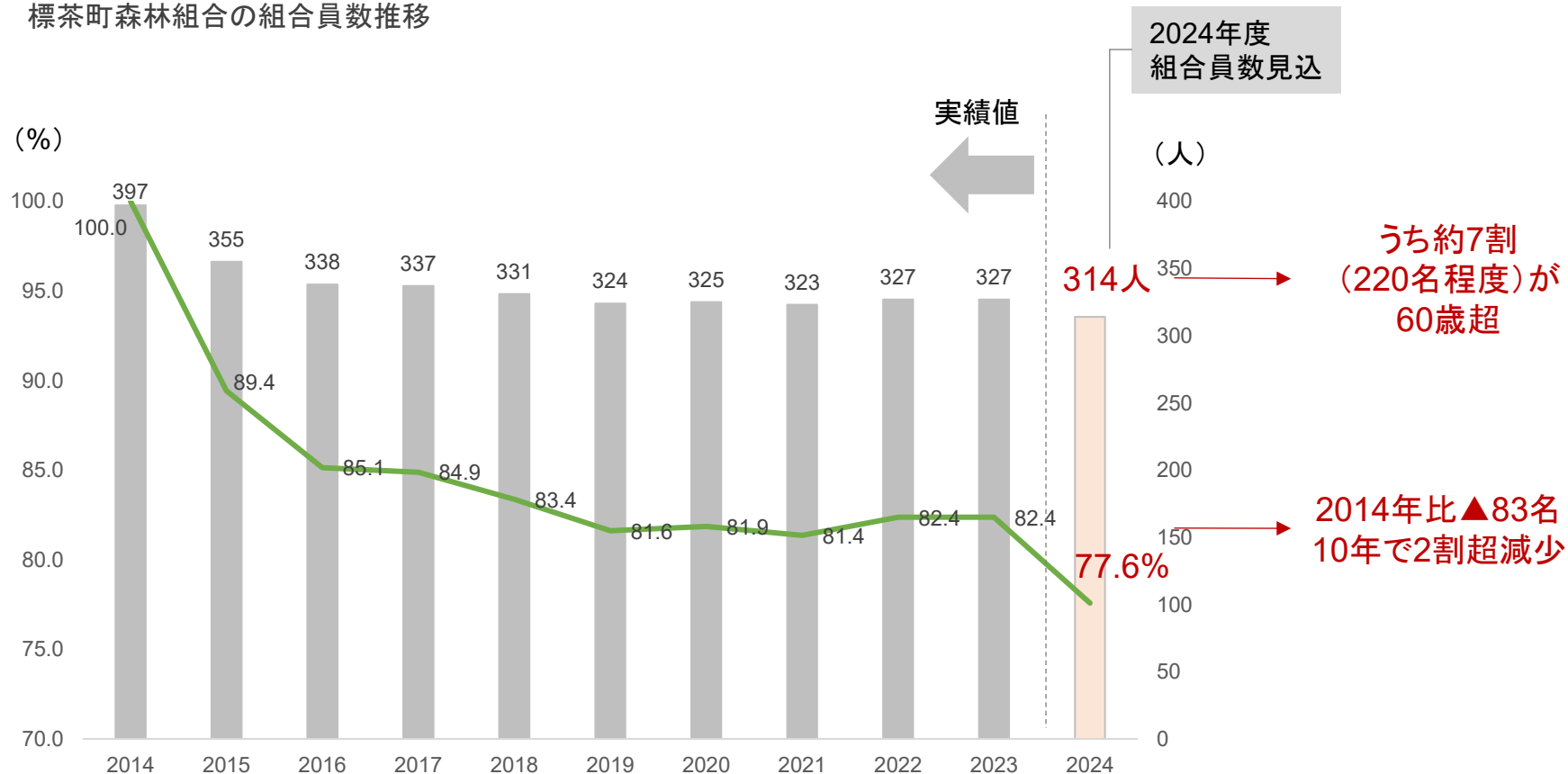
(出典:総務省 | 住民基本台帳等 | 住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数)



Ⅱ. 森林基礎調査概要_①標茶町森林の現状_山林所有者の現状

- 標茶町森林組合の組合員数は直近10年で2割超減少しており、組合員の約7割が60歳超と高齢化も進んでいます。

標茶町森林組合の組合員数推移



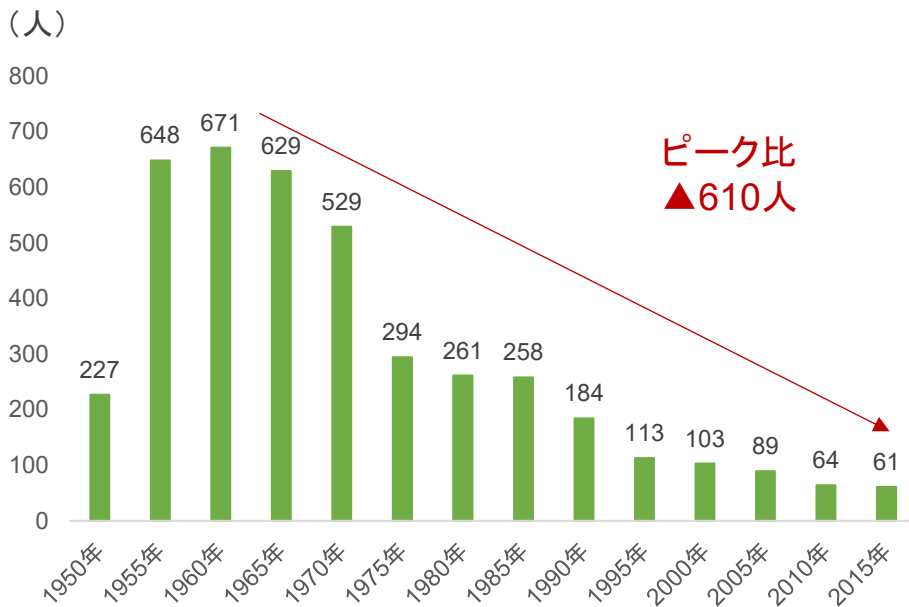
(出典: 森林組合資料及びインタビュー結果をもとに作成)



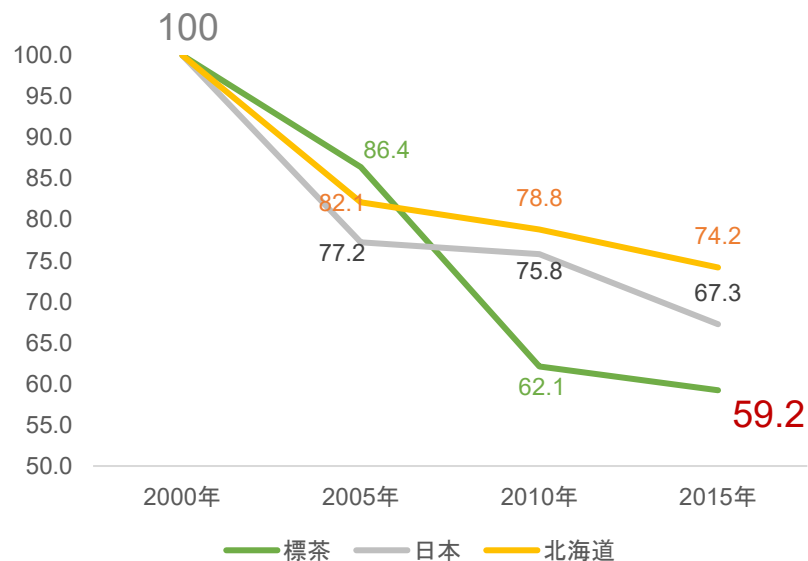
Ⅱ. 森林基礎調査概要_①標茶町森林の現状_林業従事者の現状

- 標茶町の林業従事者数はピーク時から大幅に減少しており、直近の推移を比較すると全国や北海道より速いスピードで減少が進行していることから、林業従事者確保のための施策を早急に講じていく必要があります。

標茶町林業従事者数推移



2000年を100としたときの林業従事者数推移



(出典:国勢調査及び標茶町HP)



Ⅱ. 森林基礎調査概要_①標茶町森林の現状_森林の8大機能

- 森林は生物多様性の保全や地球環境保全、土砂災害の防止といった観点から、私たちの生活と深く関わっており、極めて重要な役割を果たしています。

生物多様性保全



- ≫ 生態系の保全
- ≫ 生物種の保全
- ≫ 遺伝子の保全

水源涵養機能



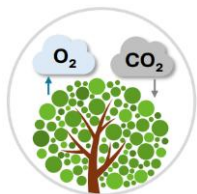
- ≫ 洪水緩和
- ≫ 水資源貯留
- ≫ 水量調節
- ≫ 水質浄化

文化機能



- ≫ 学習・教育
- ≫ 芸術
- ≫ 自然とのふれあいの場

地球環境保全



- ≫ 地球温暖化の緩和
- ≫ 二酸化炭素吸収
- ≫ 化石燃料の代替

快適環境形成機能



- ≫ 気候緩和
- ≫ 大気浄化
- ≫ 騒音防止

物質生産機能



- ≫ 木材供給

土砂災害防止機能・土壌保全機能



- ≫ 土砂災害防止
- ≫ 土壌保全
- ≫ 雪崩防止
- ≫ 防風・防雪

保健・レクリエーション機能



- ≫ 療養
- ≫ リハビリテーション
- ≫ スポーツ
- ≫ レクリエーション



- 森林には世界の陸上動植物の約8～9割にあたる生物が暮らしているといわれており、多様な生物を育む場所として遺伝子や生物種、生態系を保全する根源的な役割を果たしています。

冬季に飛来するタンチョウ



(出典:北海道森林管理局HP)

西別川



(出典:標茶町観光協会HP)



Ⅱ. 森林基礎調査概要_①標茶町森林の現状_生物多様性保全の3分類

- 生物多様性は、「生態系の多様性」「種の多様性」「遺伝子の多様性」の3つのレベルに分類され、これらが失われる事で私たちの生活に深刻な影響を及ぼします。

生物多様性が失われる事で生じる問題

生物 多様性

生態系の多様性

- 森林、河川、湿地帯など、生物が生息・生育するための様々な自然環境が存在する事

種の多様性

- さまざまな種類の生物が存在する事

遺伝子の多様性

- 同じ種の中にも様々な遺伝子が存在し、形や模様、生体が多様な個体が存在する事

食糧供給能力の低下

- ・ 病害虫リスクの増大
- ・ 土壌劣化
- ・ 漁業資源の崩壊 等

健康・医療リスクの増加

- ・ 新興感染症リスクの増大
- ・ 医療資源の喪失 等

災害抑止力の低下

- ・ 森林の質低下による土砂災害・洪水リスクの増加 等

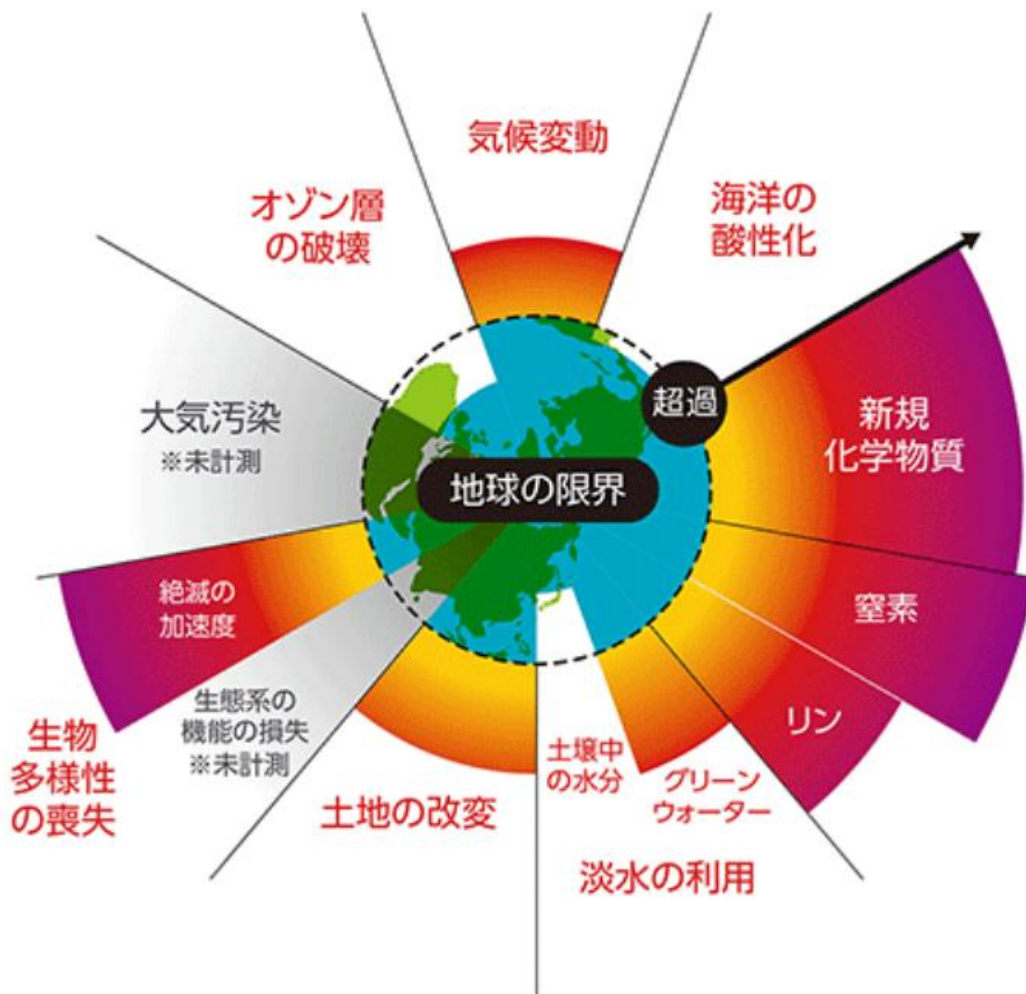
気候変動や異常気象の加速

- ・ 森林、湿地、海藻藻場などによる炭素吸収力の低下 等



- 生物多様性の喪失は地球上における最も危機的状況にある課題の1つとして位置づけられています。

プラネタリーバウンダリー



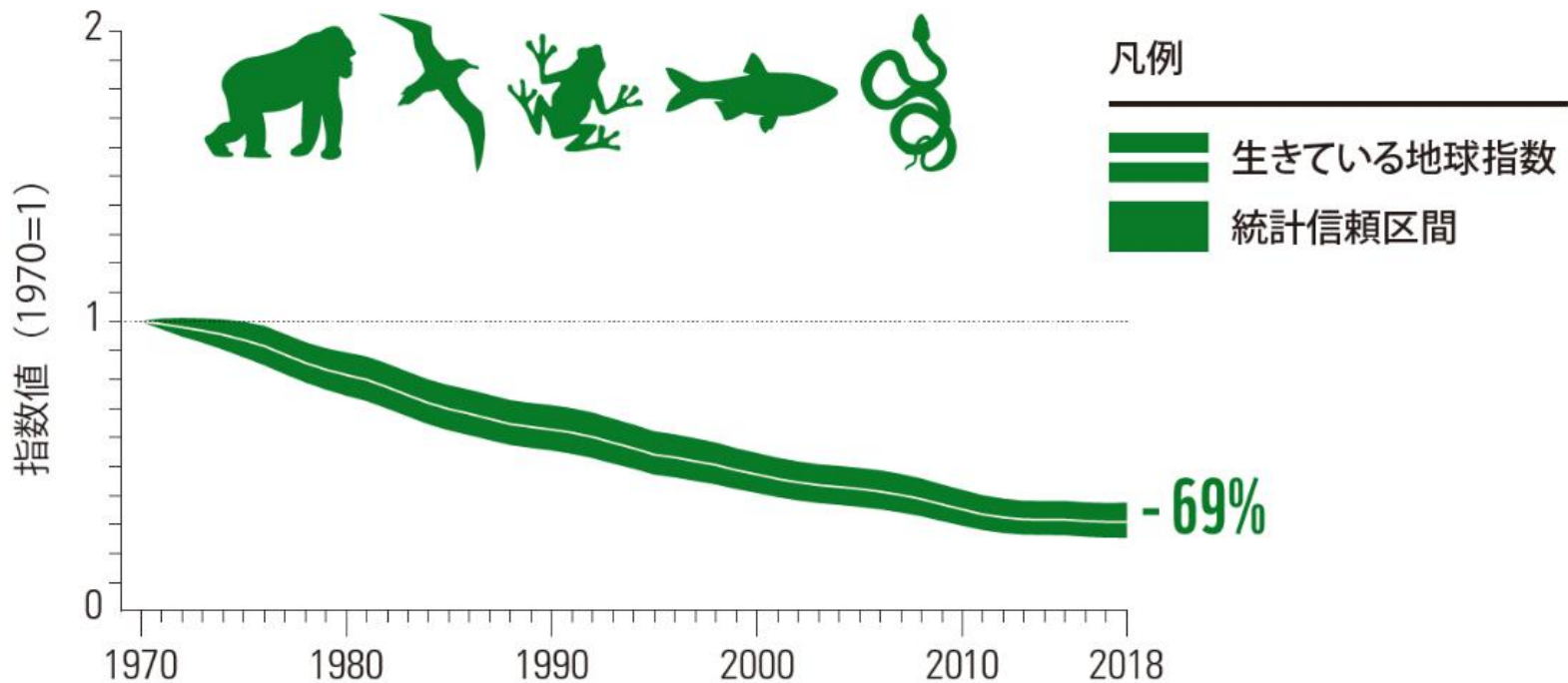
(出典: 環境省HP, 生物多様性白書, Stockholm Resilience Centre 2022より環境省作成)



Ⅱ. 森林基礎調査概要_①標茶町森林の現状_深刻化する生物多様性の喪失(2)

- 1970～2018年の間に、世界の脊椎動物の多様性は平均69%減少したと報告されており、著しい速さで喪失が進行しています。

生きている地球指標(1970年～2018年)



(出典:WWF「生きている地球レポート2022:ネイチャーポジティブな社会を構築するために」)



Ⅱ. 森林基礎調査概要_①標茶町森林の現状_生物多様性を脅かす4つの危機

- 日本の生物多様性を脅かす4つの危機として「開発・乱獲」「自然の質の低下」「外来種による生態系のかく乱」「地球環境の変化」があげられます。

生物
多様性
を脅かす
4つの
危機

第1の危機: 開発・乱獲

- 無秩序な開発や乱獲による、生物種の減少・絶滅、また生息・生育地の減少
- (例) 無秩序なメガソーラー開発

第2の危機: 自然の質の低下

- 里地・里山などの手入れが行き届かず放置される事で、生態系のバランスが崩れる
- (例) エゾシカによる食害・熊の市街地への出没

第3の危機: 外来種による生態系のかく乱

- 持ち込まれた外来種が在来種を捕食したり、生息場所を奪う
- (例) アライグマによる在来種の捕食

第4の危機: 地球環境の変化

- 地球温暖化の進行により、生息環境が変化し絶滅のリスクが高まる
- (例) 大雪山国立公園における高山植物消滅危機



(出典: 環境省HP)



(出典: 環境省HP)



(出典: 環境省HP)



Ⅱ. 森林基礎調査概要_①標茶町森林の現状_全世界で取り組むべき目標(30by30)

- 2022年の生物多様性条約第15回締結国会議(COP15)において、2030年までに陸と海の30%以上を健全な生態系として保全しようとする「30by30(サーティ・バイ・サーティ)」が全世界で取り組むべき目標として定められました。

30by30目標が目指すもの

— 生物多様性の損失を止め、人と自然との結びつきを取り戻すために —

1 30by30目標って?

2030年までに陸と海の30%以上を保全する目標です。

新たな世界目標として議論されています。

① 2010年に愛知名古屋宣言で採択された生物多様性条約第10回締結国会議(COP10)。ここで採択された生物多様性の世界目標である「愛知目標」。

② これに続く新たな世界目標である「ポスト2020生物多様性枠組」が今年12月に開催予定のCOP15(カナダ・モントリオール)で採択される予定です。30by30目標は、2030年に向けたこの具体的な目標の一つとして検討されています。

③ 77カ国は世界目標の決定に先立ち、30by30目標を約束しました。

④ 2021年6月のG7サミットにおいて、G7各国は自国での30by30目標を約束しました。

⑤ 同G7では、2030年までに生物多様性の損失を止め、目標達成に向けたネイチャー・ポジティブも打ち出しました。

国内外の研究報告で、生物多様性保全のために30by30を目指すことが重要と指摘。

① 世界の陸生哺乳類種の多くを守るために、既存の保護地域を面積の33.8%まで拡大が必要

② 日本の保護地域を30%まで効果的に拡大すると生物の絶滅リスクが3割減少する見込み

2 日本ではどのぐらいの面積が保全されているの?

陸域20.5%と海域13.3%を保護地域として保全。

2020年までの最新目標は達成。

① 「愛知目標」では2020年までに陸域17%、海域10%を保全することが掲げられていました。

② 日本では、陸域は20.3%で既に愛知目標を達成していました。その後、奄美や沖縄の国立公園の指定等により20.5%になりました。

③ 海域については8.3%でしたが、2020年に「沖合海域自然環境保全地域」という制度をつくり、小笠原方面を新たに指定し、13.3%となりました。

日本の保護地域(陸域)

3 どんな良いことがあるの?

健全な生態系を回復させ、豊かな恵みを取り戻します。

健全な生態系は、しなやかで恵み豊かです。

① 自然は気候変動問題などの社会課題解決に貢献します。温暖化を2℃未満に安定させるために2030年までに必要とされる費用削減効果の約20%は森林や自然の保全・回復、自然を活用して対応できると指摘されています。

② 例は、野生ハチ等の紛争媒介者は国内で年間3300億円以上の被害をもたらしています。森林の豊かな恵みは河川を通して海の生産性を向上させます。災害にも強く恵み豊かな自然は、国土の安全保障の基盤ともなります。

③ 地域の豊かな自然資本の活用は、観光や交通人口の増加など持続可能な地域づくりが期待できます。

4 どうやって達成するの?

保護地域に加えそれ以外の場所を力を合わせ守ります。

国立公園等の保護地域を拡張し、管理の質も向上させます。

① 新たに保護地域を拡張し、管理の質も向上させます。

② 企業等が自らの事業に30by30目標への貢献を取り込み、保護地域の拡大・回復・管理の質の向上に貢献します。

③ 企業等が自らの事業に30by30目標への貢献を取り込み、保護地域の拡大・回復・管理の質の向上に貢献します。

④ 企業等が自らの事業に30by30目標への貢献を取り込み、保護地域の拡大・回復・管理の質の向上に貢献します。

(出典:環境省HP)

30by30目標の達成に向けて

— 30by30ロードマップと、生物多様性のための30by30アライアンス —

5 30by30目標を本当に達成できる?

「30by30ロードマップ」を基にみんなで達成します。

このロードマップは、目標達成に向けた行程と具体策について、生物多様性の関係者が一層になってまとめたものです。

① 2021年のG7サミットにおいて約束された「30by30目標」の国内での達成に向けて、関係府庁連絡会議の各の下に2022年4月に会合しました。国の関係だけでなく、企業や自治体、国民の皆さんの力を合わせて達成を目指しています。

② 国際会議(生物多様性条約COP15)でも発信し、国際的な議論に貢献していきます。

キーメッセージの一つは人と自然との結びつきを取り戻すこと

① 2030年までに陸と海の30%以上を保全することを通して、生物多様性の損失を止め、人と自然との結びつきを取り戻していきます。

② この自然の恵みを取り戻すことは、地域の経済・社会・環境課題の持続可能な解決のための、健全な生態系を確保する基盤的・統合的アプローチとなります。

30by30ロードマップのワンポイントはこちら

健全な生態系の下で、自然の恵み豊かな30by30実現の地域イメージ

6 ところであなたは? 30by30アライアンスのロゴです。

私はカエルの化身。30by30アライアンスのロゴです。

30by30アライアンスは、この目標をみんなで進めていくためのリーダーであり、応援団です。

① 現場を含めた住民21団体を発起人とする「生物多様性のための30by30アライアンス」を2022年4月に発足させました。企業、自治体、NPO法人等、計443者に参加いただいています(2023年5月10日時点)

② 自らの所有地や所管地内OECM登録や保護地域の拡大を目指す、あるいはそうした取組を応援するなど、30by30の達成に向けた行動をとる仲間たちの集まりです。

③ 30by30目標を通して世の中をカエル化することを目指す仲間たちのため、このロゴマークを見たら応援をお願いします。

7 アライアンスに参加するには?

アライアンスの参加要件はこちらです。

以下のいずれか一つに取り組むこと

① 所有地や所管地の国庫OECMデータベース登録を目指す

② 保護地域の拡大を目指す、管理の充実を図る

③ 保護地域、及び国庫OECMデータベース登録を受けた(受ける見込み)サイトの管理を支援する

④ 自治体等が自らの事業に30by30目標への貢献を取り込み、保護地域の拡大・回復・管理の質の向上に貢献します。

また、参加者は、これらの取組事項を積極的に対外発信する

アライアンスの全体構造

30by30アライアンスロゴ

- 下記4種に加え、サルルン沼一帯のエゾカオジロトンボ等生息地が標茶町の指定する天然記念物となっています。

■ エゾカオジロトンボ



(出典: 北海道レッドデータブックHP)

■ ゴトウアカメイトトンボ



(出典: 北海道レッドデータブックHP)

■ サルルン沼



(出典: 標茶町HP)

■ キタサンショウウオ



(出典: 釧路市HP)

■ ベニバナヤマシャクヤク



©光田重幸

(出典: 京都府HP)



Ⅱ. 森林基礎調査概要_①標茶町森林の現状_鳥類REDリスト

- 鳥類のうちオオワシやタンチョウ等の絶滅危惧種を含む計16種がREDリストに掲載されている他、標茶町西別川流域には国の天然記念物であるシマフクロウの安定した個体群生息が確認されており、生物多様性の観点から道内における最重要エリアの1つとして位置づけられます。

■ 標茶町生物REDリスト(鳥類)

	和名	学名	RDBランク	RDBランク(略)	主な生息環境
1	オオワシ	<i>Haliaeetus pelagicus</i>	絶滅危惧種	En	河川
2	オジロワシ	<i>Haliaeetus albicilla</i>	絶滅危惧種	En	河川
3	クマタカ	<i>Spizaetus nipalensis</i>	絶滅危惧種	En	森林
4	タンチョウ	<i>Grus japonensis</i>	絶滅危惧種	En	湿地
5	チュウヒ	<i>Circus spilonotus</i>	絶滅危急種	Vu	草原
6	ハイタカ	<i>Accipiter nisus</i>	絶滅危急種	Vu	森林
7	ハヤブサ	<i>Falco peregrinus</i>	絶滅危急種	Vu	海域
8	ミコアイサ	<i>Mergus albellus</i>	絶滅危急種	Vu	河川
9	ミサゴ	<i>Pandion haliaetus</i>	絶滅危急種	Vu	河川
10	エゾライチョウ	<i>Tetrastes bonasia</i>	希少種	R	森林
11	オシドリ	<i>Aix galericulata</i>	希少種	R	河川
12	コアカゲラ	<i>Dendrocopos minor</i>	希少種	R	森林
13	シマアオジ	<i>Emberiza aureola</i>	希少種	R	河畔
14	チュウサギ	<i>Egretta intermedia</i>	希少種	R	河畔
15	ハイイロチュウヒ	<i>Circus cyaneus</i>	希少種	R	草原
16	ヒシクイ	<i>Anser fabalis</i>	希少種	R	河川

(出典: REDDATABOOK OF HOKKAIDO)

- シマフクロウの総生息数:140羽程度
(環境省・林野庁2013)



- 道内におけるシマフクロウ個体群の生息域

安定した個体群が分布する13市町村

小清水町、斜里町、羅臼町、標津町、中標津町、別海町、根室市、弟子屈市、浜中町、**標茶町**、鶴居村、厚岸町



- 両生類のうちREDリストへの掲載は絶滅危惧種であるキタサンショウウオの1種、魚類ではエゾトヨミ・オショロコマの2種がREDリストに掲載されている事に加え、標茶町内の河川では幻の魚として知られている絶滅危惧種イトウの生息も確認されています。

■ 標茶町生物REDリスト(両生類)

和名	学名	RDBランク	RDBランク(略)	主な生息環境
キタサンショウウオ	<i>Salamandrella keyserlingii</i>	絶滅危惧種	En	湿地

■ 標茶町生物REDリスト(魚類)

和名	学名	RDBランク	RDBランク(略)	主な生息環境
エゾトヨミ	<i>Pungitius tymensis</i>	希少種	R	湿地
オショロコマ	<i>Salvelinus malma malma</i>	希少種	R	河川

(出典: REDDATABOOK OF HOKKAIDO)

■ イトウ



(出典: 北海道HP)

■ エゾトヨミ



(出典: 北海道レッドデータブックHP)

■ オショロコマ



(出典: 標津町役場HP)



- 標茶町と「AOAO SAPPORO」は2025年9月29日に包括連携協定を締結し、町の天然記念物である「キタサンショウウオ」保全のための協力を開始しています。



(出典:AOAOホームページ)



Ⅱ. 森林基礎調査概要_①標茶町森林の現状_植物REDリスト

- 植物のうち計51種がREDリストに掲載されており、うち27種が絶滅危惧種に指定されている一方で、「オオハンゴンソウ」等特定外来生物による生態系への影響が懸念されています。

■ 標茶町生物REDリスト(植物_絶滅危惧種)

	和名	学名	RDBランク(略)	主な生息環境
1	クロミサンザシ	<i>Crataegus chlorosarca</i>	Cr	森林
2	コイチヨウラン	<i>Ephippianthus schmidtii</i>	En	森林
3	ヤナギタウコギ	<i>Bidens cernua</i>	En	湿地
4	イチヨウラン	<i>Dactylosteinactis ringens</i>	Vu	森林
5	イトナルコスゲ	<i>Carex laxa</i>	Vu	湿地
6	ウラボシ	<i>Anemone amurensis</i>	Vu	森林
7	エゾノミズタデ	<i>Persicaria amphibia</i>	Vu	河川
8	エゾハコベ	<i>Stellaria humifusa</i>	Vu	湿地
9	オゼノサワトンボ	<i>Habenaria yezoensis</i> var. <i>longicalcarata</i>	Vu	湿地
10	カモメラン	<i>Orchis cyclochila</i>	Vu	森林
11	キタミフクジュソウ	<i>Adonis amurensis</i>	Vu	草原
12	クシロチドリ	<i>Herminium monorchis</i>	Vu	森林
13	クシロハナシノブ	<i>Polemonium coeruleum</i> subsp. <i>campanulatum</i> var. <i>paludosum</i>	Vu	湿地
14	クシロワチガイソウ	<i>Pseudostellaria sylvatica</i>	Vu	森林
15	クリイロスゲ	<i>Carex diandra</i>	Vu	湿地
16	サワラン	<i>Eleocharis japonica</i>	Vu	湿地
17	シロミノハリイ	<i>Eleocharis margaritacea</i>	Vu	湿地
18	タカネフタバラン	<i>Listera yatabei</i>	Vu	森林
19	トキソウ	<i>Pogonia japonica</i>	Vu	湿地
20	ネムロコウホネ	<i>Nuphar pumilum</i>	Vu	河川
21	ハナタネツケバナ	<i>Cardamine pratensis</i>	Vu	草原
22	ヒメタヌキモ	<i>Utricularia minor</i>	Vu	河川
23	ヒメツルコケモモ	<i>Vaccinium microcarpum</i>	Vu	湿地
24	ホロムイクグ	<i>Carex oligosperma</i>	Vu	湿地
25	ムラサキミミカキグサ	<i>Utricularia uliginosa</i>	Vu	湿地
26	ヤチスギナ	<i>Equisetum pratense</i>	Vu	河川
27	ユキワリコザクラ	<i>Primula modesta</i> var. <i>fauriei</i>	Vu	草原

■ オオハンゴンソウ(特定外来生物)



オオハンゴンソウ防除・追跡調査実績

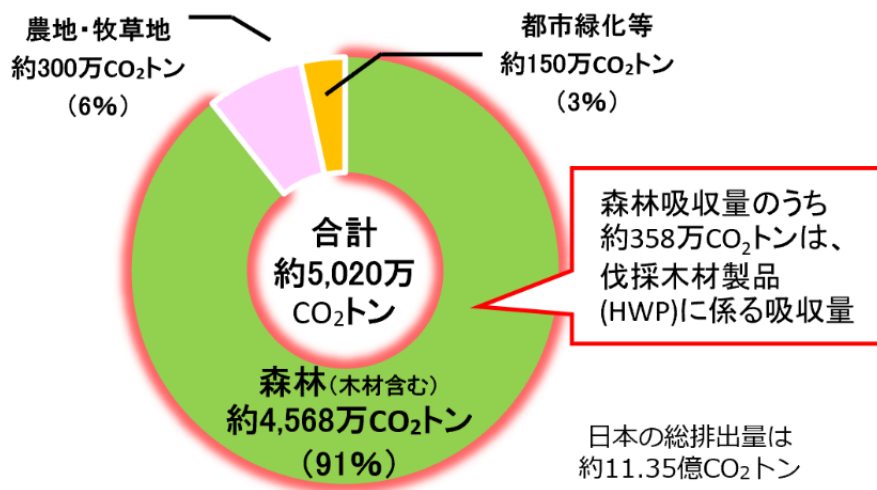
調査年度	防除量
平成30年度	21kg
令和元年度	9kg
令和2年度	13kg

(出典: 国土交通省北海道開発局HP)



- 日本の森林が吸収する二酸化炭素は年間約4,568万t-CO₂(令和4年度林野省データ)で、カーボンニュートラル実現のために重要な役割を果たしています。

我が国の二酸化炭素吸収量 (令和4(2022)年度)



注1：計の不一致は四捨五入による。

注2：吸収源活動によるCO₂吸収量を計上しており、森林については、平成2(1990)年以降に間伐等の森林経営活動等が行われている森林のCO₂吸収量を計上。

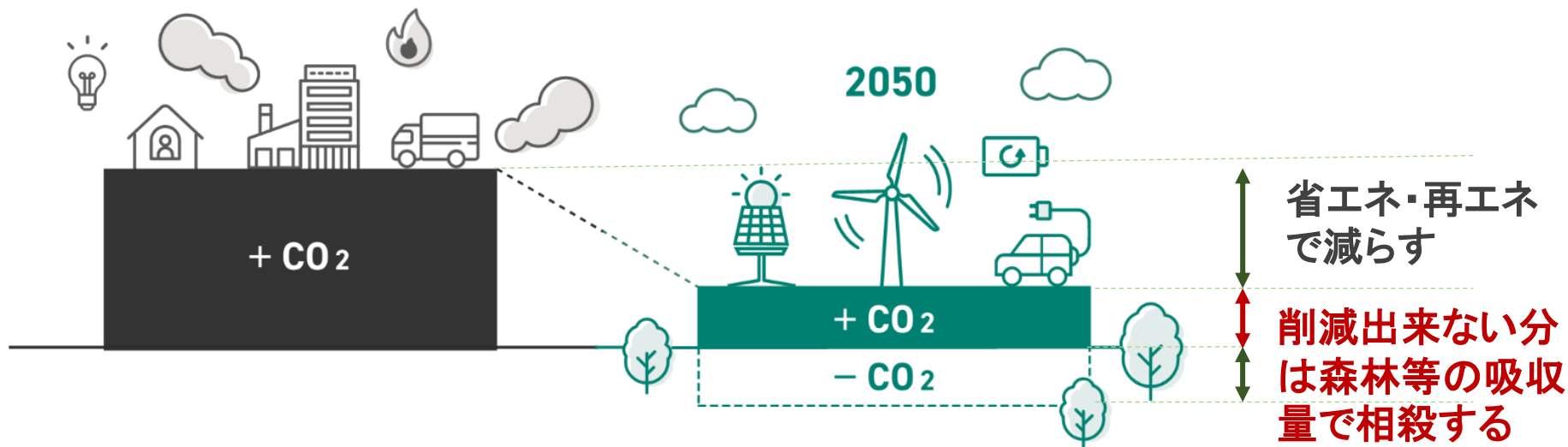
資料：国立研究開発法人国立環境研究所「2022年度の温室効果ガス排出量・吸収量について」を基に林野庁森林利用課作成。

(出典：林野庁HP)



Ⅱ. 森林基礎調査概要_①標茶町森林の現状_カーボンニュートラルとは

■ カーボンニュートラルとは、地球温暖化の原因となるCO₂をはじめとする温室効果ガス (Greenhouse Gas: GHG) 排出量ゼロを実現する取り組みで、世界全体で推進されています。





Ⅱ. 森林基礎調査概要_①標茶町森林の現状_気候変動が与える影響

- 気温上昇が2℃以下に収まるか、2℃を超えるかで、私たちの生活や企業活動に与える影響が大きく異なると予測されています。

		2℃以下		分岐点		
		1.5℃	2℃		3℃	5℃
物理的 的影響	海面上昇	30～60cm	40～80cm		40～90cm	50～170cm
	異常豪雨の発生件数	+17%	+36%		+70%	+150%
	山火事の発生エリア	1.4倍	1.6倍		2.0倍	2.6倍
	熱波の到来	22倍	27倍		80倍	300倍
	マラリア発生エリア	+12%	+18%		+29%	+46%
経済的 的影響	世界のGDP(2018年比)	▲10%	▲13%		▲23%	▲45%
	食糧供給	食生活の変化発生 熱帯地域における収穫量減			収穫量 ▲24%	収穫量 ▲60%



Ⅱ. 森林基礎調査概要_①標茶町森林の現状_脱炭素に向けた国内外の動き

- 2015年にパリ協定が採択され、カーボンニュートラルは世界的に取り組むべき共通の課題となりました。
- 日本でも2050年までにカーボンニュートラルを実現する事が目標として掲げられ脱炭素社会実現に向けた法整備が今後急速に進んでいく見通しにあります。

目的:産業革命前からの平均気温の上昇を2℃より十分に下回る水準に保持。
さらに1.5に抑える努力を追求する

脱炭素化に向けた国際的な動き

2015年 12月	パリ協定採択 (GHG削減に向けた国際的な枠組み)
2020年 ～	パリ協定運用開始 ⇒各国でカーボンニュートラルに 向けた取組みが加速
2021年 11月	154カ国・1地域がカーボンニュートラル の実現を表明



脱炭素化に向けた国内の動き

2020年 10月	政府が2050年 カーボンニュートラルを宣言
2021年 4月	政府が2030年の GHG削減の中間目標を設定
2023年 5月	GX推進法が成立 ⇒国策として脱炭素化を推進
2025年 5月	改正GX推進法の可決 ⇒CO2の直接排出量(Scope1)が3カ年の 平均で10万tを超える企業に対し、26年度 から排出量取引制度への参加を義務付け

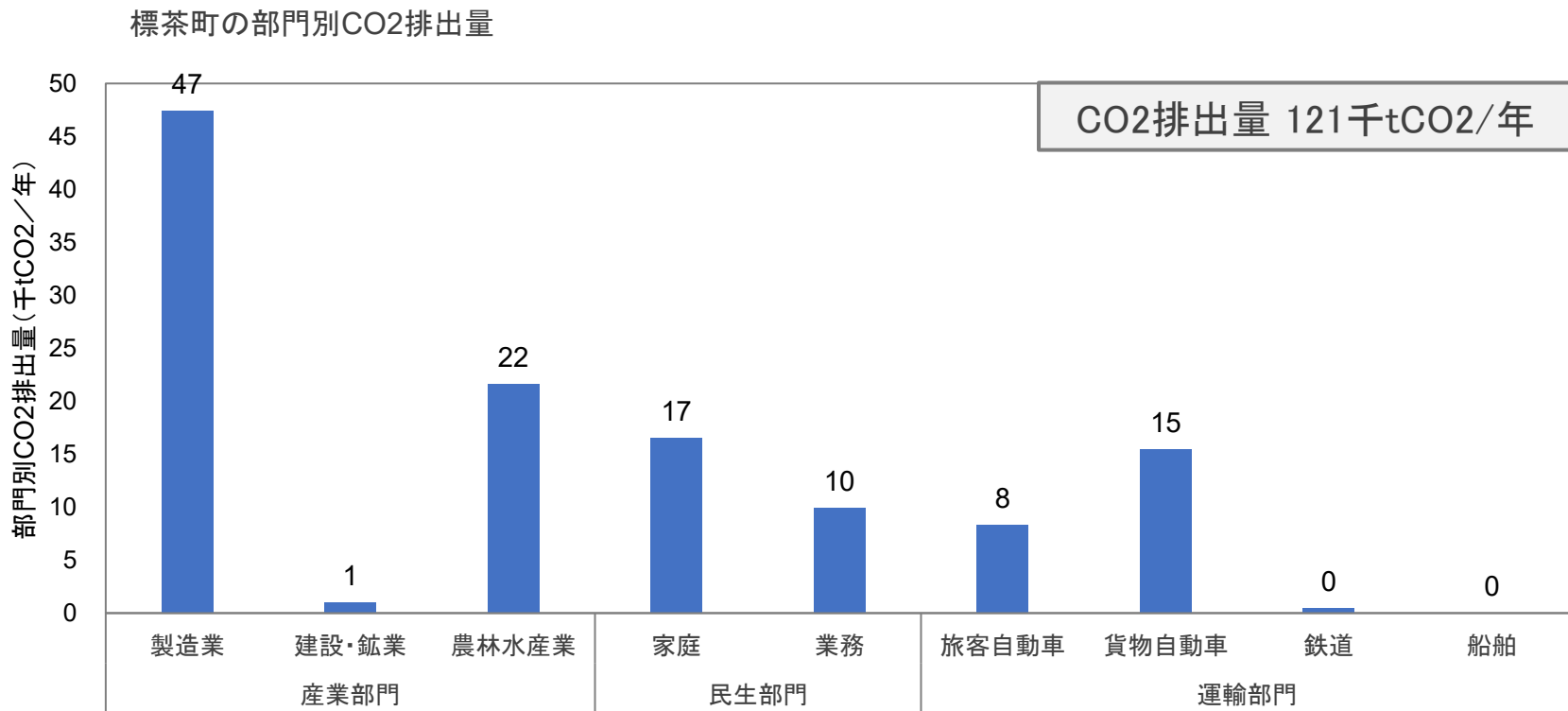


急速に進展



Ⅱ. 森林基礎調査概要_①標茶町森林の現状_標茶町全体のCO2排出量/年

- 標茶町全体の年間CO2排出量は121千tCO2であり、うち製造業の排出量は47千tCO2と最も多く、次いで農林水産業、家庭が排出量上位を占めています。

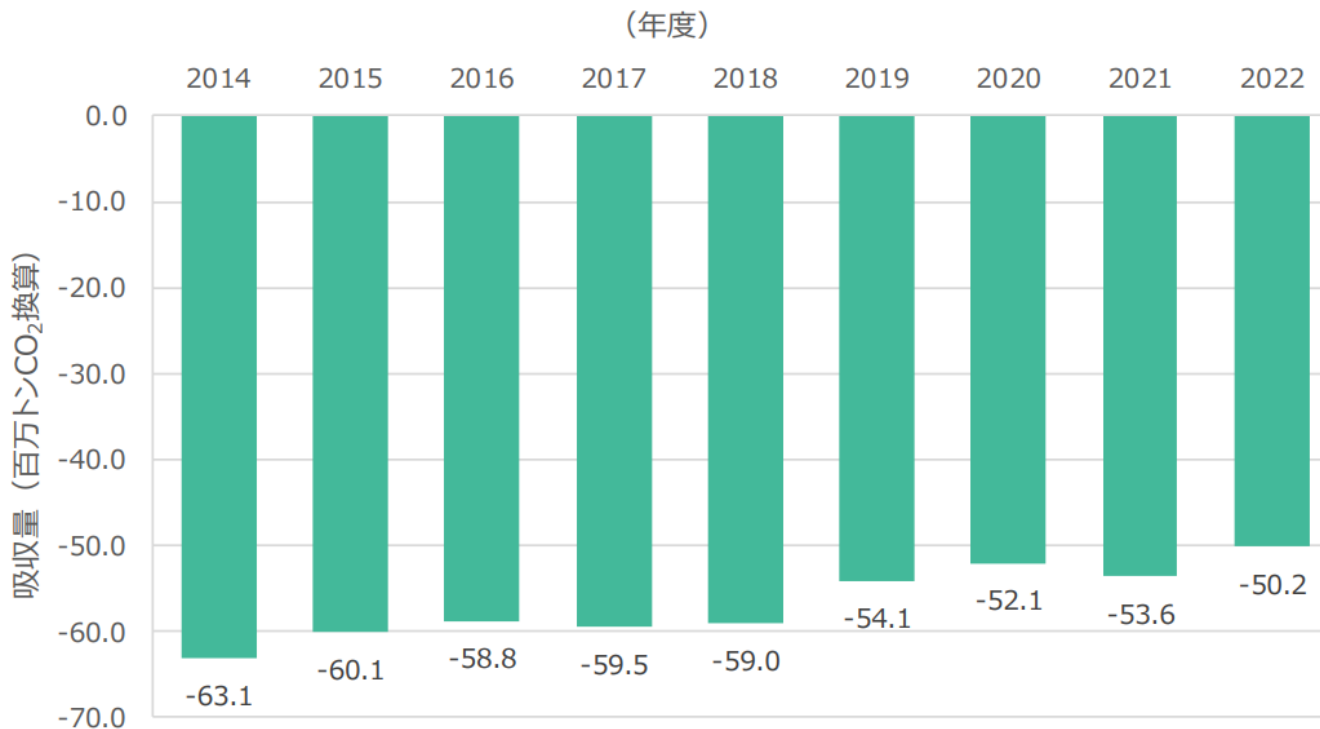


(出典: 環境省「地方公共団体実行計画(区域施策編)策定支援サイト」、部門別CO2排出量の現況推計(2020年度))



Ⅱ. 森林基礎調査概要_①標茶町森林の現状_森林のCO2吸収量推移

- 2022年度における国内森林のCO2吸収量は約5,020t-CO2で、2021年度と比較し減少傾向にあり、人工林の高齢化による成長の鈍化が主な要因と考えられています。



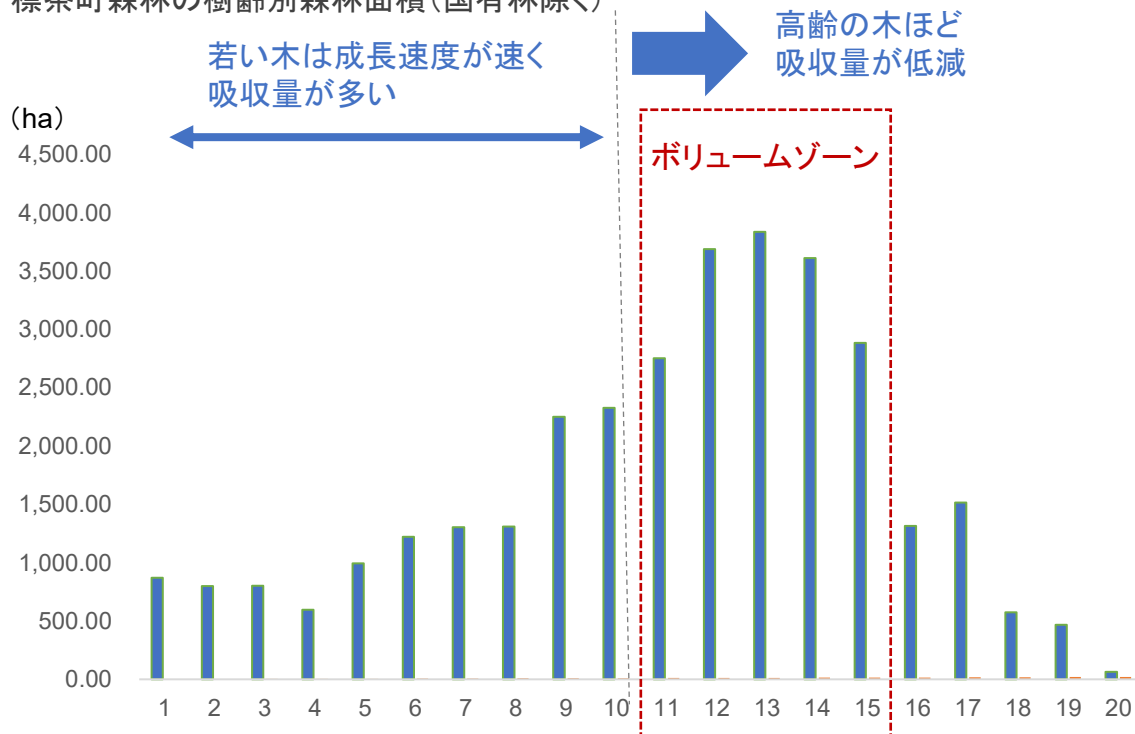
(出典:「2022年度の温室効果ガス排出・吸収量」環境省 脱炭素社会移行推進室 国立環境研究所 温室効果ガスインベントリオフィス)



Ⅱ. 森林基礎調査概要_①標茶町森林の現状_標茶町森林の林齢

- 標茶町森林は11齢級(50年生)超の森林がボリュームゾーンとなっており、今後主伐・再造林の実施により若返りを図っていく事が、CO2吸収量維持・増進の観点からも重要となります。

標茶町森林の樹齢別森林面積(国有林除く)



(出典: 森林クラウドデータをもとに作成)

苗木を植栽した年を1年生として

- 1齢級(1～5年生)
- 2齢級(6～10年生)
- 3齢級(11～15年生)
- 4齢級(16～20年生)
- 5齢級(21～25年生)
- 6齢級(26～30年生)
- 7齢級(31～35年生)
- 8齢級(36～40年生)
- 9齢級(41～45年生)
- 10齢級(46～50年生)
- 11齢級(51～55年生)
- 12齢級(56～60年生)
- 13齢級(61～65年生)
- 14齢級(66～70年生)
- 15齢級(71～75年生)
- 16齢級(76～80年生)
- 17齢級(81～85年生)
- 18齢級(86～90年生)
- 19齢級(91～95年生)
- 20齢級(96～100年生)

吸収量
が低減



Ⅱ. 森林基礎調査概要_森林のCO2吸収量を維持・増進させるための施業

- 森林のCO2吸収量維持・増進のためには、伐採・再造林(伐ったら植える)を通じて樹木の若返りを図っていくと共に、間伐等の保育施業を今後も継続していく事で、森林の適切な成長を促していく事が重要です。

再造林の様子(地拵え・植栽・下刈)



(出典: 林野庁HP)

間伐の様子



(出典: 標茶町HP)

■ 標茶町では北洋銀行グループと連携し、森林施業を適切に実施する事で増加が見込まれるCO2吸収量を価値化する、森林クレジット創出の取り組みを進めています。

NEWS RELEASE



2024年6月21日

各位

株式会社北洋銀行

標茶町との J クレジットの推進および林業 DX に向けた連携に関する協定について

株式会社北洋銀行(取締役頭取 津山 博恒)と子会社の株式会社北海道共創パートナーズ(代表取締役社長 岩崎 俊一郎)は、標茶町様(町長 佐藤 吉彦 様)の「クレジット推進および林業 DX」に向けて、以下の企業様、森林組合様と連携協定を締結しました。

本協定は、標茶町の森林保全に加え、森林由来クレジットの創出および販売の事業スキーム等の検証、林業に係る各種申請・諸手続の DX 化、および林業プラットフォームの DX 化に関する取組みを通じ、地域経済の活性化や雇用の創出などを支援することを目的としています。

当行は、今後も北海道を営業基盤とする金融機関として環境・社会問題に取り組むお客さまを支援してまいります。

記

1. 連携協定の目的

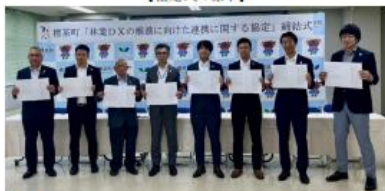
- (1) 森林由来クレジットの創出及び販売の事業スキーム等の検証に関すること
- (2) 林業に係る各種申請・諸手続のDX化に関すること
- (3) 林業プラットフォームのDX化に関すること

2. 連携協定の締結企業



※各者の詳細は別紙をご参照願います

【協定式の様子】



北洋銀行グループは、2018 年 12 月「北洋 SDGs 宣言」を表明し、地域の持続的成長支援と社会的課題の解決に取り組んでおります。なお、SDGs に関連するプレスリリースには、該当する SDGs のアイコンを明示しております。

【SDGs】2015 年の国連サミットで採択された、持続可能な世界を実現するための 2030 年までの国際目標。17 のゴールと 169 のターゲットで構成される。

以上



(出典:林野庁HP)

森林・木材由来のJ-クレジット

＜適切な森林管理＞



森林経営計画に
基づいた間伐・植林等

＜再工ネの導入＞



バイオマス固形燃料（木質バイオマス）
による化石燃料又は系統電力の代替

北洋銀行グループ経営理念：お客さま本位を徹底し、多様な課題の解決に取り組み、北海道の明日をきりひらく

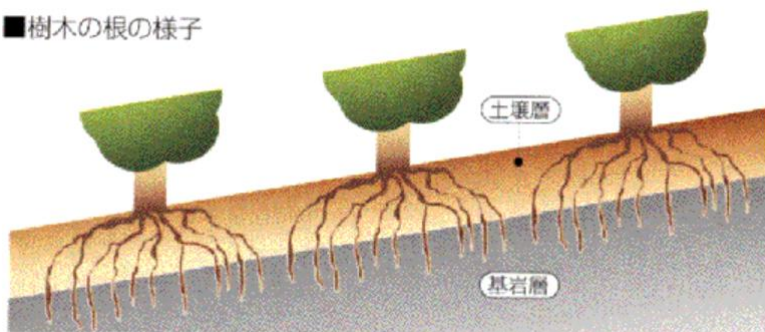


Ⅱ. 森林基礎調査概要_①標茶町森林の現状_森林が果たす防災の役割

- 森林は樹木が根を張り巡らせることによって土砂の崩壊を防いだり、雨水を貯留し河川へ流れ込む水の量を平準化する事で洪水を緩和する等、防災能力向上のために重要な役割を果たしています。

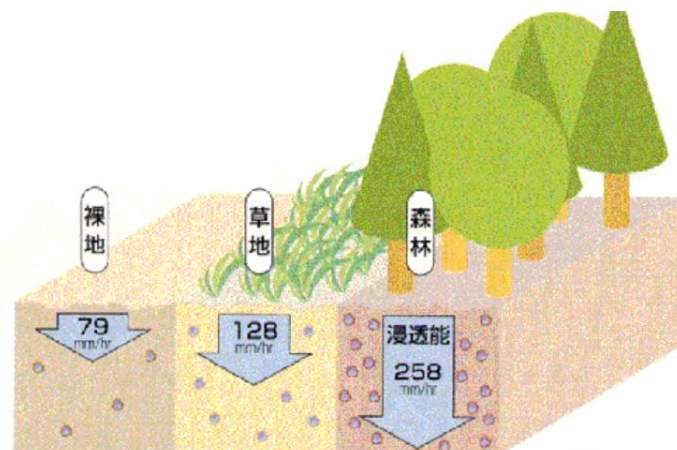
森林の土砂崩壊防止機能

■ 樹木の根の様子



(出典: 林野庁HP)

洪水緩和



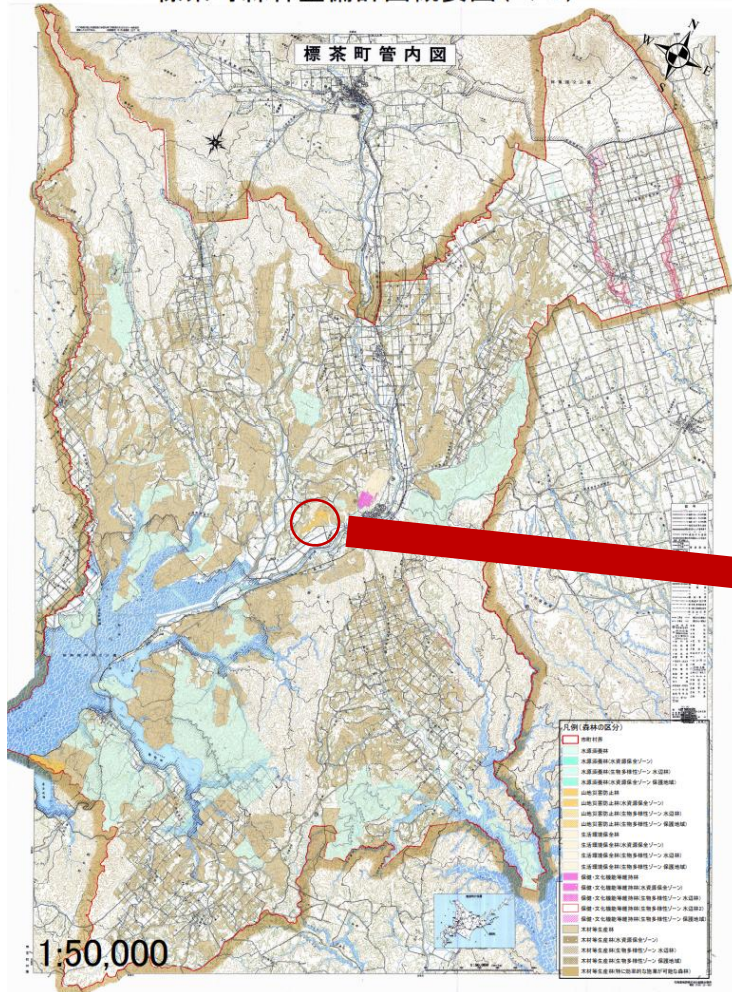
※資料: 村井宏・石崎勇作「林地の水及び土壌保全機能に関する研究」



Ⅱ. 森林基礎調査概要_①標茶町森林の現状_山地災害防止林

- 標茶町では、防災上特に重要な役割を果たす森林を「山地災害防止林」に指定し、他のエリアとは異なる方針を定め施業管理を行う事で、防災能力の維持・向上を図っています。

標茶町森林整備計画概要図(2/3)



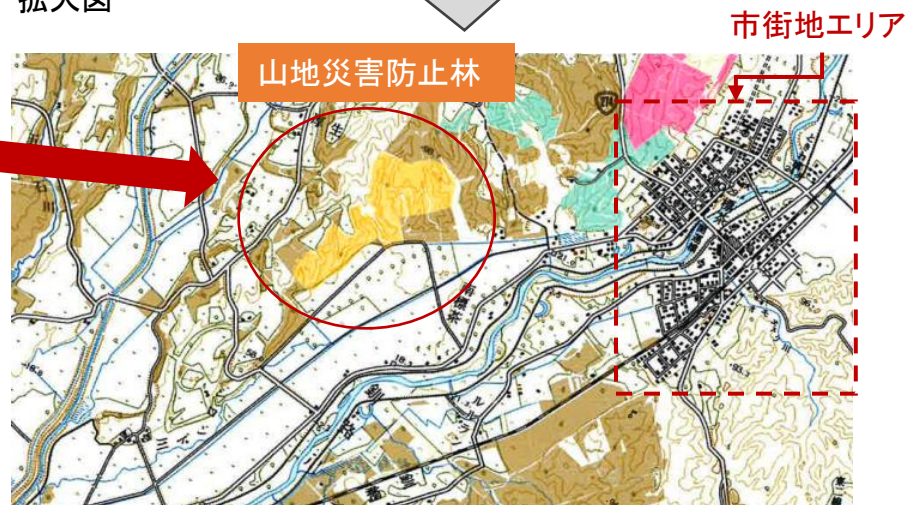
山地災害防止林(オレンジ色)

- ・ 防災上特に重要な役割を果たす森林
- ・ 防災能力の維持・向上を目的とした管理が行われている
- ・ 土砂災害等が発生する可能性が高いエリアの近くに指定されている事が多い



拡大図

市街地エリアに近い
私たちにとって身近な場所にも
山地災害防止林があります

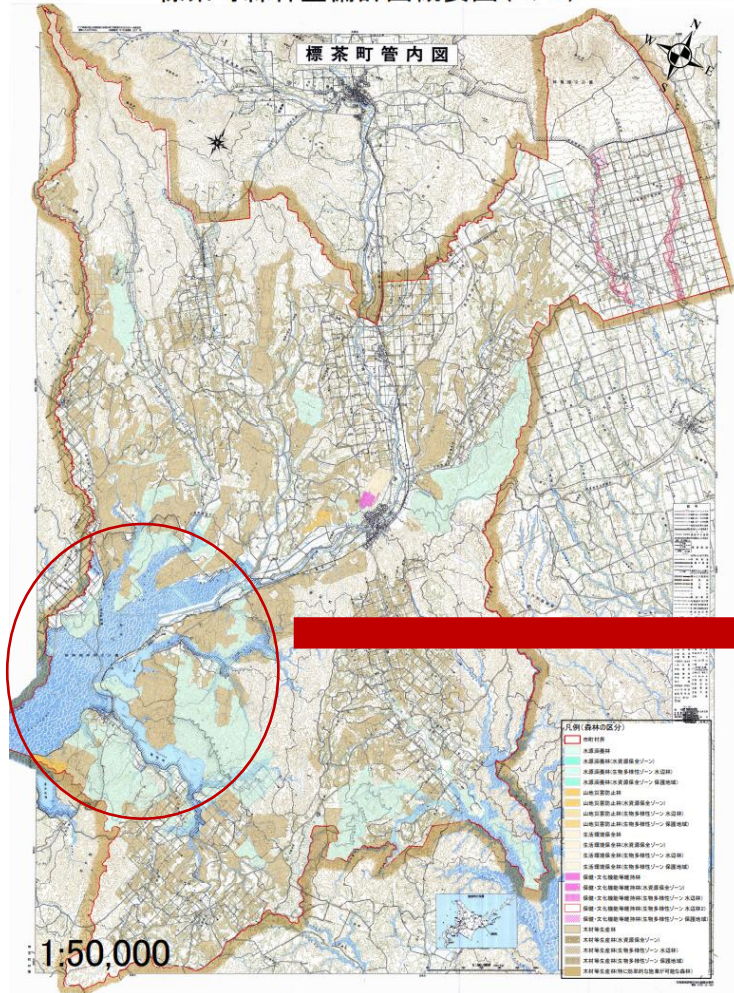




Ⅱ. 森林基礎調査概要_①標茶町森林の現状_水源涵養林

- 標茶町では、水質保全や洪水防止の観点から重要な森林を「水源涵養林」に指定し、他のエリアとは異なる方針を定め施業管理を行う事で、水源涵養能力の維持・向上を図っています。

標茶町森林整備計画概要図(2/3)



水源涵養林(水色)

- 水質保全や洪水防止の観点で重要な役割を果たす森林
- 水源涵養能力の維持・向上を目的とした管理が行われている
- 釧路湿原や河川周辺エリアに近い森林が多く指定されている



拡大図

釧路湿原や河川周辺エリアにあり
下流にある豊かな海の源となっています



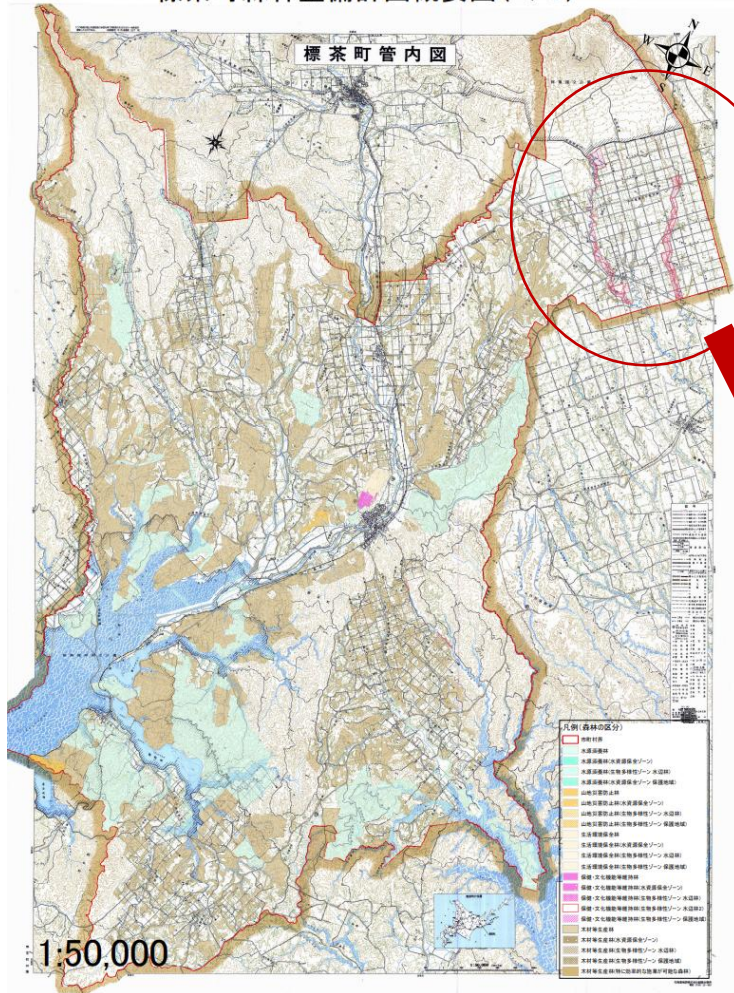
青色のエリアは
釧路湿原国立公園



Ⅱ. 森林基礎調査概要_①標茶町森林の現状_生物多様性ゾーン

- 標茶町では、生物多様性保全の観点で重要な森林を「生物多様性ゾーン」に指定し、他のエリアとは異なる方針を定め施業管理を行う事で、生物多様性の保全を図っています。

標茶町森林整備計画概要図(2/3)



生物多様性保全ゾーン(斜線)

- ・ 生物多様性保全の観点で重要な役割を果たす森林
- ・ 山地災害防止林や水源涵養林等の区分に重複して設定
- ・ 水辺林タイプ(河川等の周辺で特に保全が必要な森林)と保護地域タイプ(保護地区として指定されている森林等)がある



拡大図

野生生物にとって重要な生息地となっている西別川周辺エリア森林等が指定されています

生物多様性保全ゾーン





I. はじめに

- | | |
|-----------------|-----|
| ① 森林ビジョン策定の目的 | P.3 |
| ② 森林ビジョン検討委員会概要 | P.4 |
| ③ 実施スケジュール | P.5 |

II. 森林基礎調査概要

- | | |
|-----------------|------|
| ① 標茶町森林の現状 | P.7 |
| ② 標茶町林産業の現状 | P.51 |
| ③ インタビュー結果概要 | P.60 |
| ④ 現状の課題と進むべき方向性 | P.65 |

III. 第1回森林ビジョン討議会概要

P.67

IV. 第2回森林ビジョン討議会概要

P.69

V. 第3回森林ビジョン討議会概要

P.71

VI. 標茶町森林ビジョン

P.78

VII. 用語集

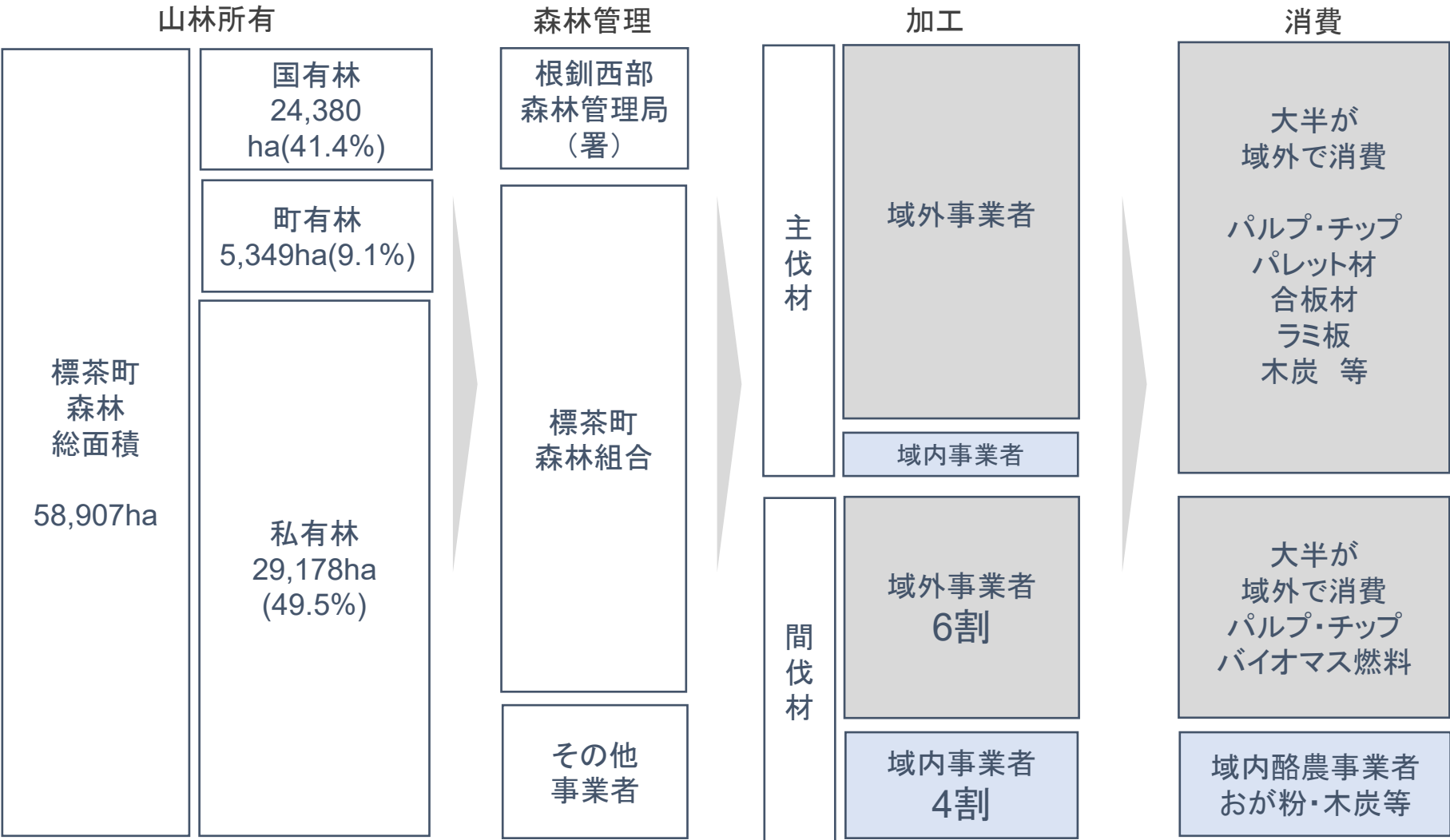
P.86





Ⅱ. 森林基礎調査概要_②標茶町林産業の現状_標茶町木材流通俯瞰図

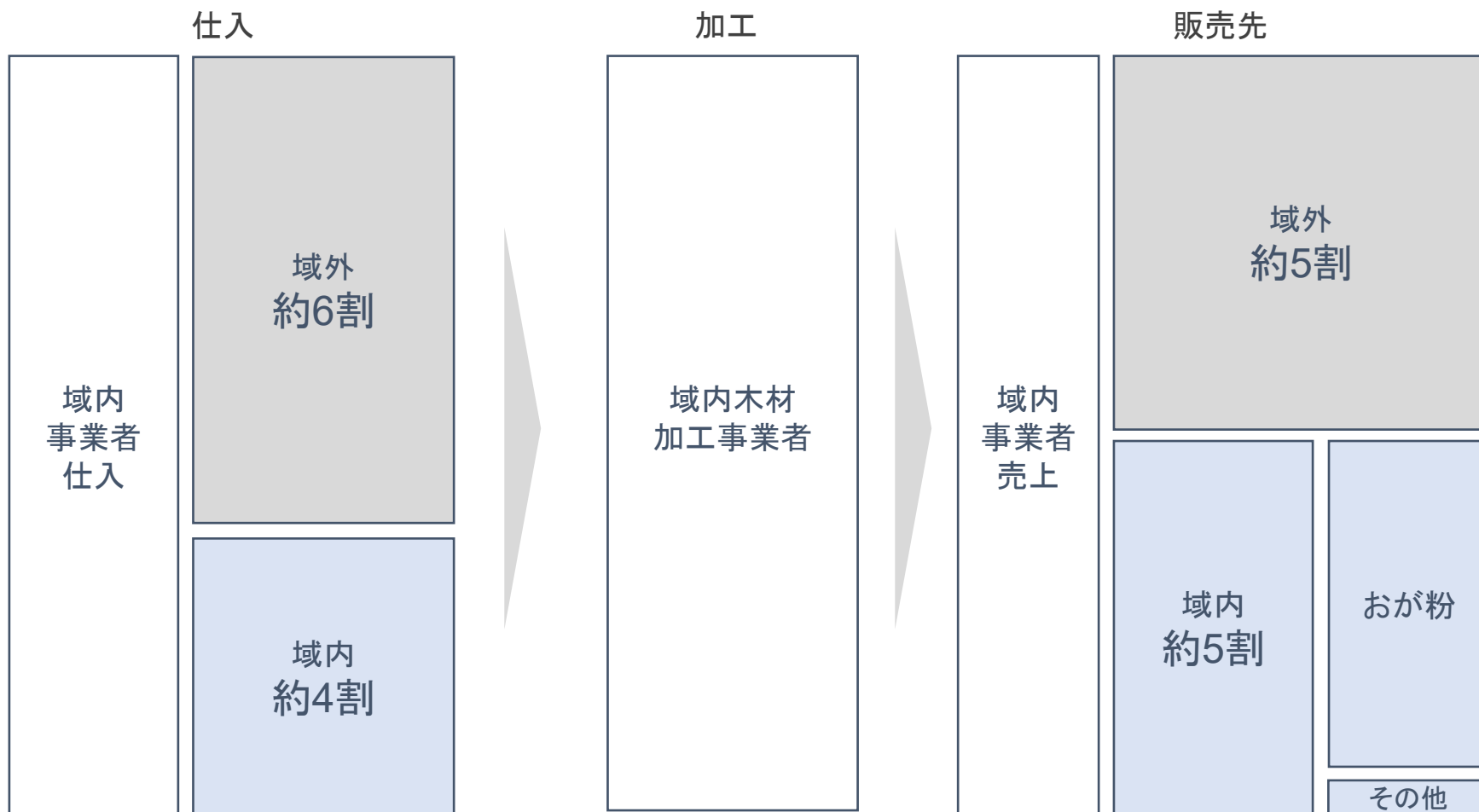
■ 標茶町産木材のうち間伐材のおよそ4割は域内で加工・流通している一方で、間伐材の6割及び主伐材の大半は加工の段階で域外に流出しており、域内循環が実現できていない状態です。



(出典: 標茶町森林整備計画及びインタビュー結果をもとに作成)



- 域内木材加工事業者は仕入れの半分以上を域外から調達している状態です。
- 販売先に関しては、約半数がおが粉等の加工製品として域内に流通しています。



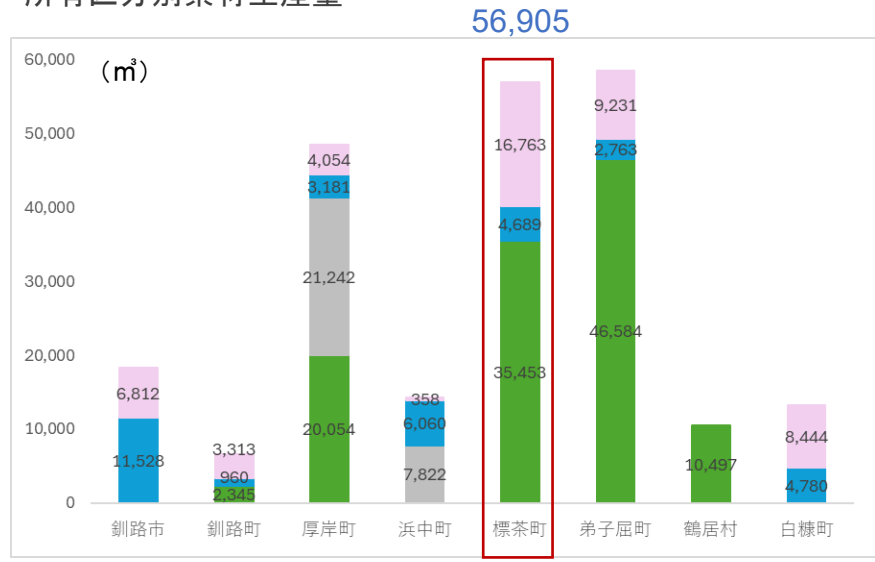
(出典: TDBデータとインタビュー結果をもとに作成)



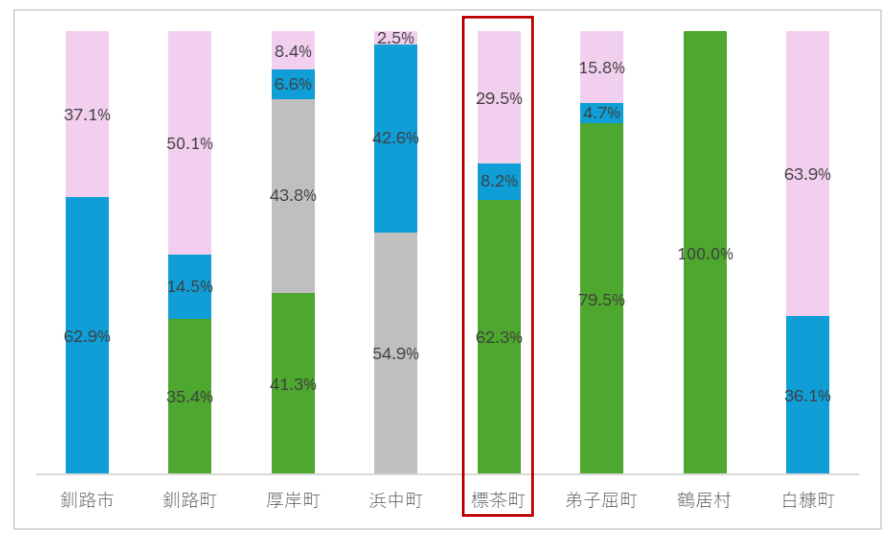
Ⅱ. 森林基礎調査概要_②標茶町林産業の現状_素材生産量比較(1)

■ 令和4年度における標茶町の素材生産量は56,905m³で近隣自治体では弟子屈町に次ぐ生産量であり、うち国有林の生産量が6割、町有林が1割、その他民有林が3割程度を占めています。

所有区分別素材生産量



所有区分別素材生産割合



国有林

市町村有林

道有林

その他民有林

(出典: 釧路の林産令和4年度実績)

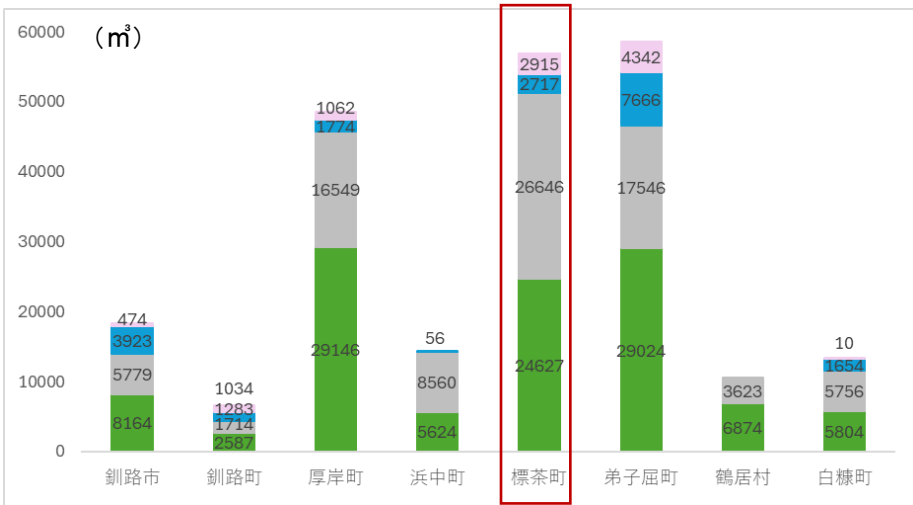


Ⅱ. 森林基礎調査概要_②標茶町林産業の現状_素材生産量比較(2)

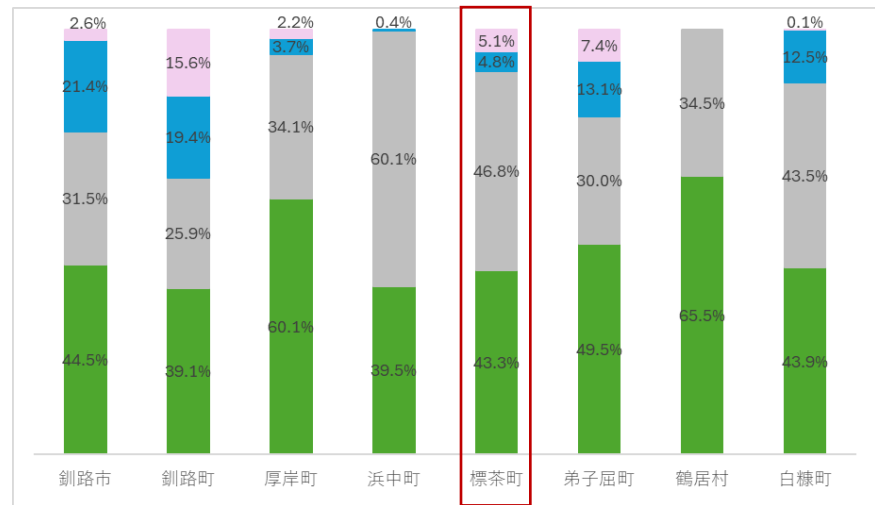
■ 用途別生産量ではパルプ・チップ用材が46.8%と最も多く、同程度の生産ボリュームを有している弟子屈町・厚岸町と比較すると、一般用材の占める割合が小さい傾向にあります。

用途別素材生産量

56,905



用途別素材生産割合



一般用材

合単板材

パルプ・チップ用

その他

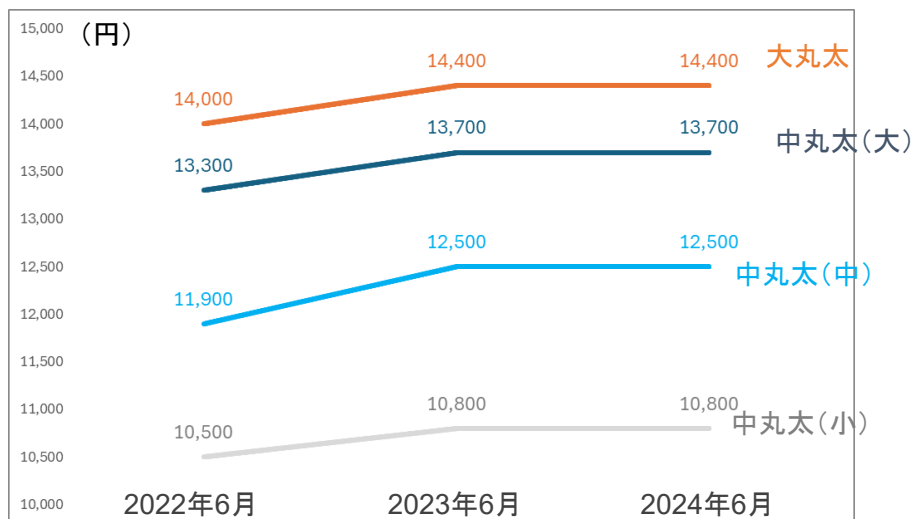
(出典: 釧路の林産令和4年度実績)



Ⅱ. 森林基礎調査概要_②標茶町林産業の現状_木材市場価格推移

- 木材供給量不足や燃料費・人件費等の高騰が要因となり、トドマツ・カラマツいずれの樹種においても市場価格は上昇傾向にあり、価格上昇分を販売価格に転嫁させ利益を確保していくためには、新たな林産業の開発等付加価値を生み出していく取り組みが求められています。

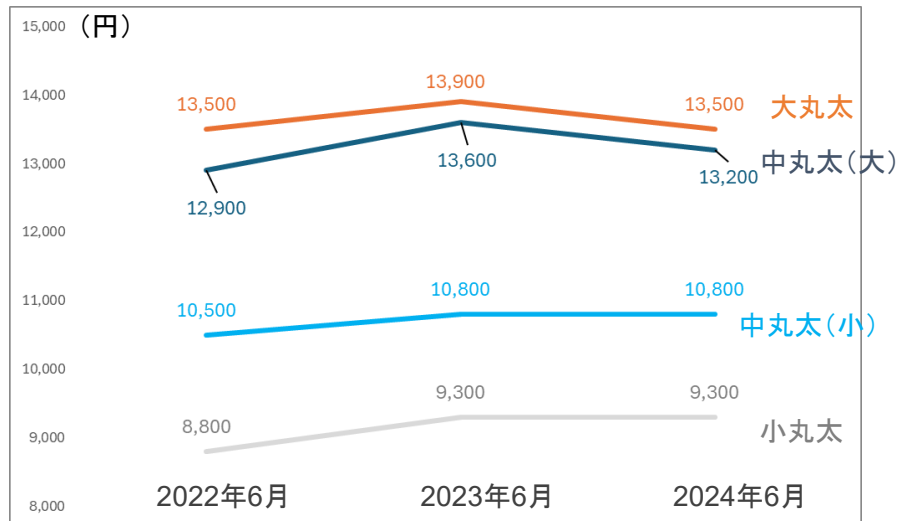
トドマツ素材価格推移(釧路)



大丸太: 直径30～38cm
中丸太(大): 直径24～28cm
中丸太(中): 直径20～22cm
中丸太(小): 直径14～18cm

(出典: 民有林新聞データ)

カラマツ素材価格推移(釧路)



大丸太: 直径30cm以上
中丸太(大): 直径20～28cm
中丸太(小): 直径14～18cm
小丸太: 直径9～13cm

(出典: 民有林新聞データ)



Ⅱ. 森林基礎調査概要_②標茶町林産業の現状_林道・作業道等の維持・整備

- 効率的な森林施業・素材運搬を実現するうえで、林道・作業道等が維持・整備されている事は非常に重要です。
- 標茶町では、森林環境譲与税等を活用し、定期的に林道・作業道等の整備を進めています。



(出典: 標茶町HP)



Ⅱ. 森林基礎調査概要_②標茶町林産業の現状_林業DXの取り組み

- 標茶町は北洋銀行、テイクス・グリーン、マプリー等と連携協定を締結し、ドローンやレーダーを活用した林業DX推進に向け検討を進めています。



胸高直径



プロットの設置



現況測量



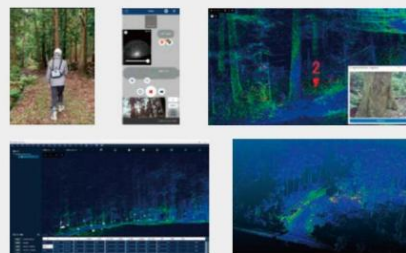
境界調査

LiDAR mapry有料オプション

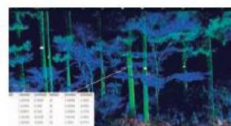
現場の点群管理や、地上でのデータ取得に最適

LA03

背負って歩くだけで、点群データを取得することができます。オプションでリュック用ストラップを取り付けることも可能です。

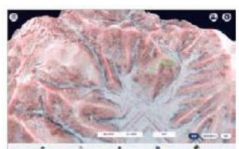


点群解析(PC版)

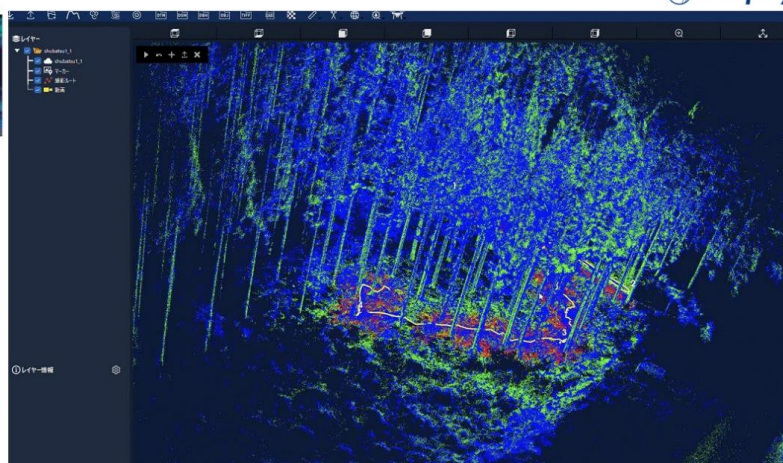


立木検知

林業 (iOS版、Android版)



3D地形マップ



mapry



Ⅱ. 森林基礎調査概要_②標茶町林産業の現状_地域材有効活用の取り組み

- 標茶高校と標茶町観光協会は、道東地域に社有林を有するユアサ木材株式会社と連携し、町有林から出るミズナラ材を活用し、木製ピンバッチの製作を進めています。





I. はじめに

- | | |
|-----------------|-----|
| ① 森林ビジョン策定の目的 | P.3 |
| ② 森林ビジョン検討委員会概要 | P.4 |
| ③ 実施スケジュール | P.5 |

II. 森林基礎調査概要

- | | |
|-----------------|------|
| ① 標茶町森林の現状 | P.7 |
| ② 標茶町林産業の現状 | P.51 |
| ③ インタビュー結果概要 | P.60 |
| ④ 現状の課題と進むべき方向性 | P.65 |

III. 第1回森林ビジョン討議会概要

P.67

IV. 第2回森林ビジョン討議会概要

P.69

V. 第3回森林ビジョン討議会概要

P.71

VI. 標茶町森林ビジョン

P.78

VII. 用語集

P.86





Ⅱ. 森林基礎調査概要_③インタビュー結果概要_インタビュー調査概要

■ 2024年11～12月にかけて、下記の対象者(8先)に対してインタビューを実施致しました。

主要インタビュー項目

- ・ 標茶町林産業の将来について
- ・ 標茶町林産業の課題について
- ・ 標茶町林業の課題について
- ・ 標茶町への要望・期待する施策

	対象者		実施時期
第1回インタビュー	森林組合	・ 標茶町森林組合様	2024年11月27日
	山林所有者	・ 個人山林所有者様	
第2回インタビュー	木材加工事業者	・ 有限会社北海林産様 ・ 株式会社不二木材様	2024年12月19日
	種苗業者	・ 有限会社谷口種苗農園様	
	森林管理事業者	・ 明盛建設株式会社様	
第3回インタビュー	木材加工事業者	・ 平野産業株式会社様	2024年12月24日



- インタビューを実施した多くの方から、標茶町林産業を取り巻く環境は非常に厳しく、現状のままでは林産業を次の世代につないでいくのは難しいとの回答がありました。

	標茶町林産業の将来について
回答	・ 林業は続いていくと思うが、林産業はなくなると思う。 ・ バイオマス発電に原料を持っていかれ、この先木材を安定して調達できるかわからず不安。 ・ 設備の老朽化が進んでいるが、この先の原木の調達見通しがたたない事には設備投資にも踏み切れない。 ・ 付加価値をつけて木材を売らないと持続していかない。 ・ 今までと変わらずこれから先も、ただ木を伐採して素材を売るだけでは、付加価値はつかないし、新しいものは生まれてこない。
	標茶町林産業の課題について
回答	・ 域内事業者への木材安定供給と地域内循環が実現できていないこと。 ・ 新たな林産業を開発し、付加価値を創造する取り組みが不足していること。



- インタビューを実施した多くの方が標茶町林業の課題として、担い手不足をあげており、林業のイメージや魅力の向上が必要と回答されています。

	標茶町林業の課題について
回答	■ 域内事業者への木材安定供給と地域内循環が実現できていない ■ 新たな林産業を開発し、付加価値を創造する取り組みが不足している ■ 林業の担い手不足 ・ 林業に従事する現場人材が絶対的に必要。いかに林業に人を呼び込めるかが勝負だと思う。 ■ 林業イメージや魅力の向上 ・ キツイ、汚い、臭い、危険、泥だらけになるというイメージが先行している。 ・ 「標茶町は酪農だけじゃないんだよ」と伝えていけるように活動する必要がある。 ・ 林業の魅力をPRし高めていかなければ、持続させていくのはなかなか難しい。 ■ 森林所有者の意欲や意識の向上 ・ 付加価値をつけて木材を売る儲かる林業に転換していかないと持続していかない。 ・ 他の事業と比べても旨みがなく、継続して山林を所有する意欲がほとんど無くなってしまっている。特に個人所有者が採算を確保するのは非常に難しい。 ・ 若い子どもたちは山林に何の興味もない。このままいくと、個人所有者はどんどん山林を手放し、森林組合も維持できなくなると思う。 ・ 森林所有者一人一人の自覚や意識を高めていく必要がある。



- 標茶町へ期待する施策として、林業人材の確保・育成支援や異業種同士が連携しあえる仕組みの構築、森林所有者向け勉強会の実施等の回答がありました。

	標茶町への要望・期待する施策
回答	■ 林業人材の確保・育成を支援する施策 ■ 異業種同士が連携し合える仕組みの構築 ➢ 自社だけでなく、農業等の関連する事業も含め林業全体が潤っていけばいいなと思っている。異業種が交流する機会があると良いと思う。 ■ 森林所有者育成のための勉強会 ➢ 造林や森林管理を続けていく必要性や、整備の仕方・管理の仕方等を伝えることで、森林所有者が主体的に考えるよう促していく事が必要だと思う。 ➢ 現状は森林所有者同士の繋がりもあまりなく、意見を交換する機会がない。 ➢ 所有者不明の森林増加を抑制していくためには、現所有者や将来の所有者の自覚を養ってもらう事が重要だと思う。 ■ 山林を活用した新たな事業展開を後押しする施策



I. はじめに

- | | |
|-----------------|-----|
| ① 森林ビジョン策定の目的 | P.3 |
| ② 森林ビジョン検討委員会概要 | P.4 |
| ③ 実施スケジュール | P.5 |

II. 森林基礎調査概要

- | | |
|-----------------|------|
| ① 標茶町森林の現状 | P.7 |
| ② 標茶町林産業の現状 | P.51 |
| ③ インタビュー結果概要 | P.60 |
| ④ 現状の課題と進むべき方向性 | P.65 |

III. 第1回森林ビジョン討議会概要

P.67

IV. 第2回森林ビジョン討議会概要

P.69

V. 第3回森林ビジョン討議会概要

P.71

VI. 標茶町森林ビジョン

P.78

VII. 用語集

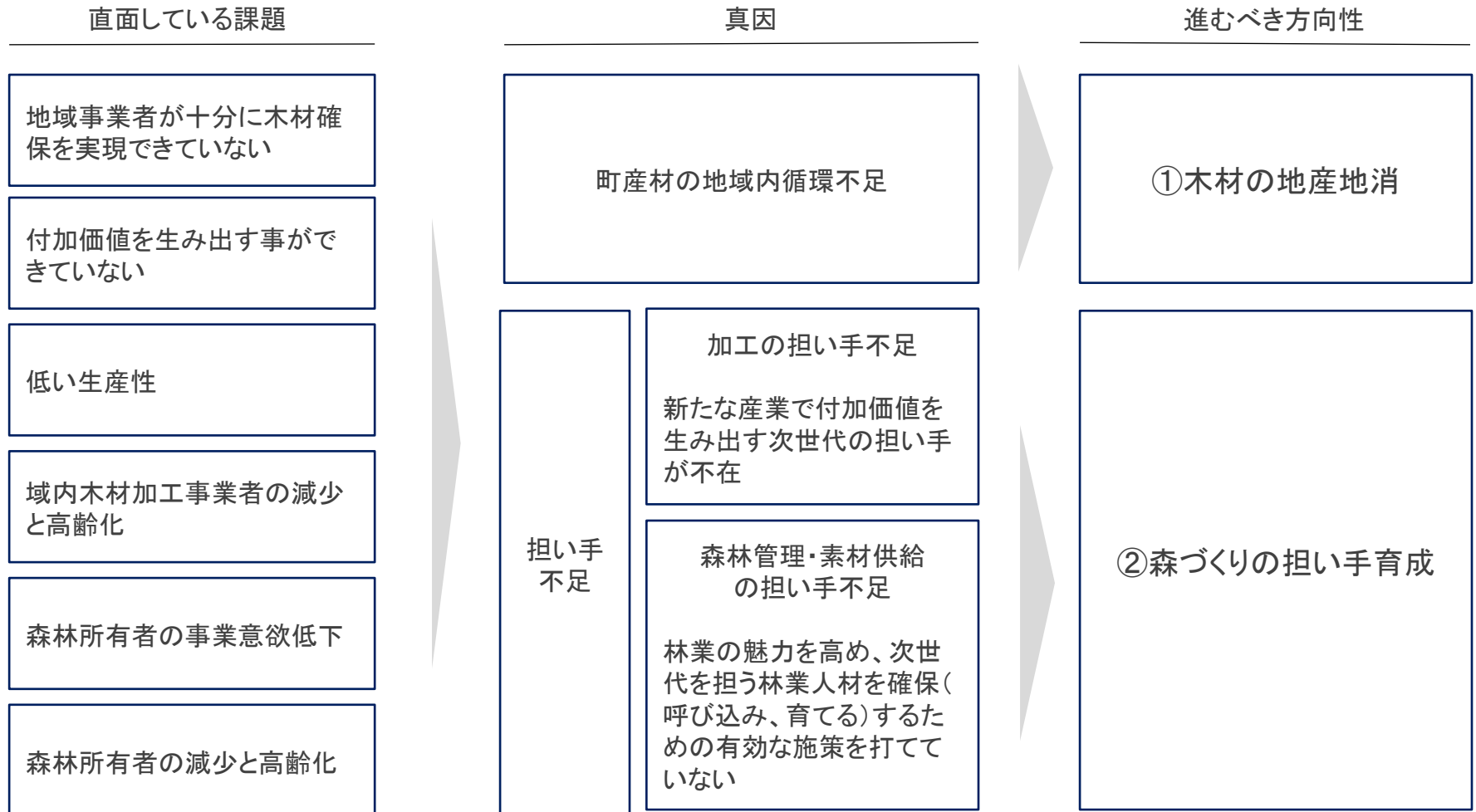
P.86





Ⅱ. 森林基礎調査概要_現状の課題と進むべき方向性

- 標茶町林業・林産業が直面している課題の真因は町産材の地域内循環不足と担い手不足であり、①木材の地産地消、②森づくりの担い手育成が最重要取り組みテーマになるものと考えられます。





I. はじめに

- | | |
|-----------------|-----|
| ① 森林ビジョン策定の目的 | P.3 |
| ② 森林ビジョン検討委員会概要 | P.4 |
| ③ 実施スケジュール | P.5 |

II. 森林基礎調査概要

- | | |
|-----------------|------|
| ① 標茶町森林の現状 | P.7 |
| ② 標茶町林産業の現状 | P.51 |
| ③ インタビュー結果概要 | P.60 |
| ④ 現状の課題と進むべき方向性 | P.65 |

III. 第1回森林ビジョン討議会概要

IV. 第2回森林ビジョン討議会概要

V. 第3回森林ビジョン討議会概要

VI. 標茶町森林ビジョン

VII. 用語集



- 林産業を未来につなぐをテーマに、森林組合や地元木材加工事業者に参加いただき議論を実施しました

第1回 討議会

2025年8月21日
13:00～15:00

テーマ 林産業を未来につなぐ



< 参加メンバー >

- ・ 標茶町森林組合様
- ・ 有限会社北海林産様
- ・ 株式会社不二木材様
- ・ 釧路総合振興局 産業振興部様
- ・ 釧路総合振興局 森林室様
- ・ 株式会社北洋銀行様

直面している課題

- ・ 標茶町木材の地域内循環が十分に実現できていない。
- ・ 町全体で新たな林産業を開発し、付加価値を創造する取り組みが十分に実現できていない。
- ・ 木材加工事業者の高齢化と担い手不足。

目指すべき姿・進むべき方向性

- ・ 木材の地産地消を推進し、新たな林産業の開発に取り組む事で、標茶町の林産業を次世代につなげる。
- ・ そのために、森林組合・地域の木材加工事業者・標茶町役場の3者が集まり議論する場を継続的に設ける。



I. はじめに

- | | |
|-----------------|-----|
| ① 森林ビジョン策定の目的 | P.3 |
| ② 森林ビジョン検討委員会概要 | P.4 |
| ③ 実施スケジュール | P.5 |

II. 森林基礎調査概要

- | | |
|-----------------|------|
| ① 標茶町森林の現状 | P.7 |
| ② 標茶町林産業の現状 | P.51 |
| ③ インタビュー結果概要 | P.60 |
| ④ 現状の課題と進むべき方向性 | P.65 |

III. 第1回森林ビジョン討議会概要

P.67

IV. 第2回森林ビジョン討議会概要

P.69

V. 第3回森林ビジョン討議会概要

P.71

VI. 標茶町森林ビジョン

P.78

VII. 用語集

P.86



- 林業の魅力向上と次世代の担い手確保をテーマに、森林組合や地元種苗事業者、森林管理事業者に参加いただき議論を実施しました。
- 道南森づくりの会様が渡島管内での取り組み事例について、講演を行いました。

第2回 討議会

2025年10月6日
13:00～15:00

テーマ 林業の魅力向上と 次世代の担い手確保



< 参加メンバー >

- ・ 標茶町森林組合様
- ・ 有限会社谷口種苗農園様
- ・ 明盛建設株式会社様
- ・ 道南森づくりの会様
- ・ 釧路総合振興局 産業振興部様
- ・ 釧路総合振興局 森林室様
- ・ 北洋銀行様

直面している課題

- ・ 林業における深刻な担い手不足。
- ・ 次世代を担う林業の担い手が育たず、将来的に森林管理が行き届かなくなる懸念がある。

目指すべき姿・進むべき方向性

- ・ 世代交代が進み、若い林業従事者が多く活躍している。
- ・ 林業が魅力ある事業として認識され、次世代を担う人材が多く育っている。



I. はじめに

- | | |
|-----------------|-----|
| ① 森林ビジョン策定の目的 | P.3 |
| ② 森林ビジョン検討委員会概要 | P.4 |
| ③ 実施スケジュール | P.5 |

II. 森林基礎調査概要

- | | |
|-----------------|------|
| ① 標茶町森林の現状 | P.7 |
| ② 標茶町林産業の現状 | P.51 |
| ③ インタビュー結果概要 | P.60 |
| ④ 現状の課題と進むべき方向性 | P.65 |

III. 第1回森林ビジョン討議会概要

P.67

IV. 第2回森林ビジョン討議会概要

P.69

V. 第3回森林ビジョン討議会概要

P.71

VI. 標茶町森林ビジョン

P.78

VII. 用語集

P.86



- 「脱炭素・生物多様性・防災の観点から未来の標茶町森林のあるべき姿を考える」をテーマに、標茶高校生徒様を中心に議論を実施しました。
- 野生生物総合研究所様が、生物多様性において森林が果たす役割に関する講演を行いました。

第3回 討議会

2025年11月14日
11:00~12:30

テーマ

脱炭素・生物多様性・防災の観点から
未来の標茶町森林のあるべき姿を考える



< 参加メンバー >

- ・ 標茶町森林組合様
- ・ 北海道標茶高等学校様(生徒様6名、教員様1名)
- ・ 京都大学フィールド科学教育研究センター北海道研究林様
- ・ 野生生物総合研究所様
- ・ 釧路総合振興局 産業振興部様
- ・ 釧路総合振興局 森林室様
- ・ 株式会社北洋銀行様

目指すべき姿・進むべき方向性

- ・ 樹木の若返りや成長促進を図る事でCO2吸収量が最大化されている森林。
- ・ 樹木の根が深く広く発達し、土壌を保持する能力や浸透・保水能力の高い、優れた防災機能を発揮する森林。
- ・ 多様な生態系が維持されて多様な種類・遺伝子の在来種が生息している森林。

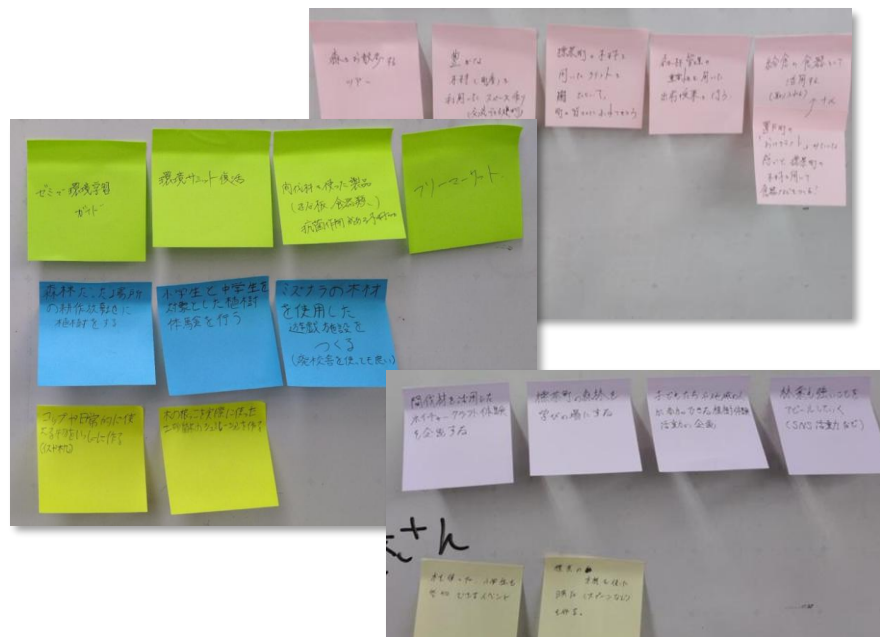


- 標茶高校生徒様が、森林管理の重要性や、林業・林産業の魅力を地域の人たちに知ってもらう方法を考えるワークショップに取り組みました。

取り組みの様子



ワークショップ





林産業を未来につなぐ

過去森林だった開発地跡で、現在は活用されていない未立木地に植樹をして森林に戻す活動を行う。

廃校舎を活用し、ミズナラ材を使用した遊戯施設（アスレチック等）をつくる。

標茶町産材を使って、コップ・スプーン・机・椅子など、日常的に使えるものをつくる。

標茶町産材を活用し、地域住民が交流できる空間をつくる。

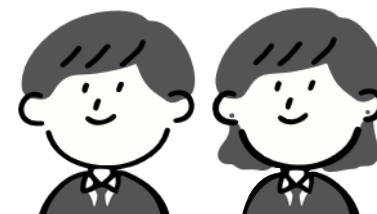


脱炭素・生物多様性・防災

全国の高校生が集まる環境サミットを標茶町で開催したい。

標茶高校の森林を活用して、地域の人が交流・参加できる環境学習ガイドを、ゼミで企画・実施する。

森林により土砂崩れをどれだけ防げているかのシミュレーションを行い、結果を公表する。





林業の魅力向上と次世代の担い手確保

木を使ったネイチャークラフト。標茶高校でも実施しているが、木に触れあえてよかったという感想をもらった。

置戸町の「オケクラフト」のように、標茶の木材を用いて食器を作り、小中学校の給食の食器として利用する。

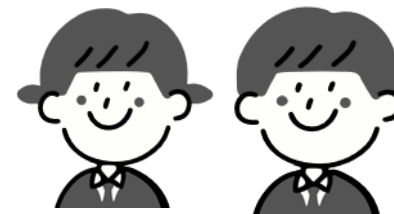
幼少期から木に触れあえるよう、標茶町産材を使った遊具やおもちゃを作る。

小中学生など、若い世代向けの植樹体験や木イベントを開催する。

森を散歩するツアーを企画する。
森の中に入って木と触れ合ってみることが、
人々のリラックスに繋がる。

地域のこども園や小学校に対し、森林管理の重要性を
伝える出前授業を行う。
子どもの頃の体験は、大人になっても忘れない。

林業や林産業の魅力発信を
SNSのリール動画を使って行う。





京都大学フィールド科学教育研究 センター北海道研究林 様

自分達も大学の研究林でイベントを企画しているが、イベントの認知度を高める方法を模索している段階です。SNSIによる情報発信に関する意見も出ていたので、どうすれば多くの地域の方々にイベントを知ってもらえるか、是非高校生の視点でアドバイスが欲しいです。

食器の製造など、高校生だけでは実現が難しいアイデアもあったので、地域の木材加工業者と相談して、どうすれば実現できるのか考えていく事が重要だと感じました。



野生生物総合研究所 様

標茶町は、全国的に見ても、すごいバックグラウンドとポテンシャルを持った地域だと感じました。例えば、釧路湿原国立公園の敷地面積において、約45%は標茶町が占めていますし、全国で最大の敷地面積を誇る標茶高校がある事も大きな特徴だと思います。

今回のような取り組みを継続していく事が非常に重要で、地域の人たちにも参加してもらい、是非持続していただきたいなと思いました。



標茶高校生徒 様

地域住民や町役場と意見を交わしながら、将来の森林のあり方について学ぶ貴重な機会となり、標茶町の間伐材をこれから地域にどう還元していくか・住民と触れ合う機会を作るか高校生の視点で考えた意見を伝えるなど、私たちができることについて考え直すことができました。



標茶高校生徒 様

標茶高校には林業を学ぶ科目がなく、標茶の森林のことを真剣に考える機会は私たちにとって貴重で非常に有意義な機会になりました。役場や振興局の方、林業を営んでいる方、森林組合の方など多くの大人の方と未来の森林について議論することができました。



京都大学フィールド科学教育研究
センター北海道研究林 様

地域の現状や高校生たちの現状認識、意欲などが知れて大変有意義な場でした。時間の関係で、今回は難しかったですが、有識者の方々にコメントをいただいたり、高校生と意見交換する時間をより多く設ける事ができると、更に良い会になると思いました。



I. はじめに

- | | |
|-----------------|-----|
| ① 森林ビジョン策定の目的 | P.3 |
| ② 森林ビジョン検討委員会概要 | P.4 |
| ③ 実施スケジュール | P.5 |

II. 森林基礎調査概要

- | | |
|-----------------|------|
| ① 標茶町森林の現状 | P.7 |
| ② 標茶町林産業の現状 | P.51 |
| ③ インタビュー結果概要 | P.60 |
| ④ 現状の課題と進むべき方向性 | P.65 |

III. 第1回森林ビジョン討議会概要

P.67

IV. 第2回森林ビジョン討議会概要

P.69

V. 第3回森林ビジョン討議会概要

P.71

VI. 標茶町森林ビジョン

P.78

VII. 用語集

P.86





みんなの森

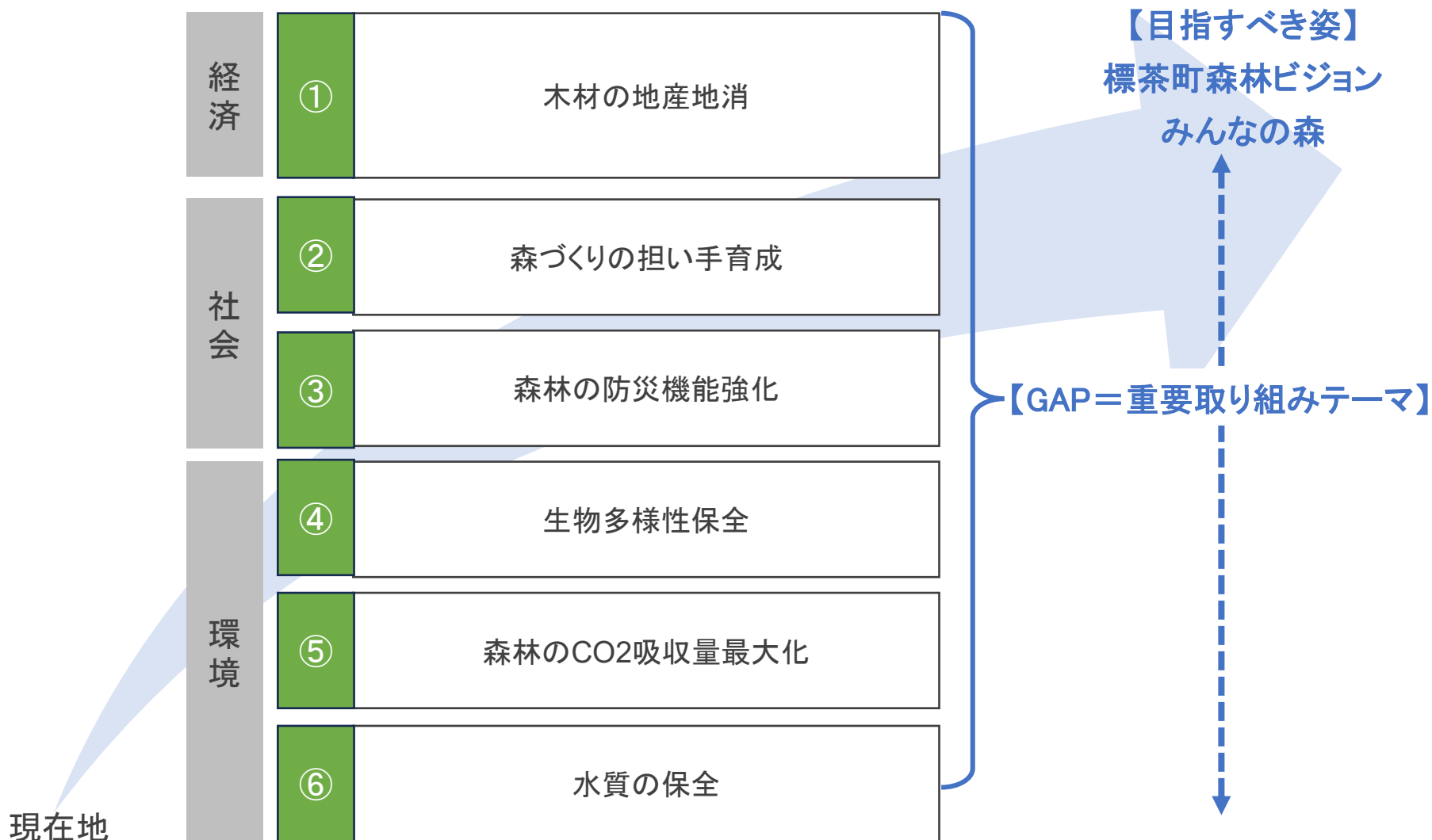
～次の世代に誇れる森を、みんなで作る～

標茶町森林ビジョン検討委員会では、地域の様々なステークホルダーに参いただき、将来における標茶町森林や林業・林産業のあるべき姿・目指すべき姿を、みんなで考え、作りあげてきました。

「みんなの森」には、これから先の森づくりも、多くの方々に参加いただき、次の世代に誇れる森を、みんなで作っていききたいという願いが込められています。

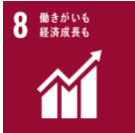


- 森林基礎調査結果及び、全3回の森林ビジョン検討委員会における討議内容を踏まえ、重要取り組みテーマを「経済」「社会」「環境」の観点から以下の6つに特定しました。



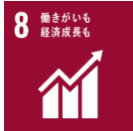


- 「木材の地産地消推進」実現のため、下記取り組みアプローチを実践してまいります。

	重要取り組みテーマ	取り組みアプローチ		SDGsとの関連
1-1	木材の 地産地消	地域の林産事業者に 木材を安定供給するための 施策検討	・ 標茶町森林組合、木材加工事業者、標茶町役場による、定例的な会議体の継続 ・ 域内木材加工事業者が町産材を購入する際の費用補助制度新設の検討 ・ 町内における森林生育状況の把握・データ化 ・ 未立木地への植樹の取り組み ・ 木材安定供給のための林道・作業道等の整備	 8 働きがいも 経済成長も  9 産業と技術革新の 基盤をつくろう  15 陸の豊かさも 守ろう  17 パートナシップで 目標を達成しよう

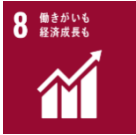


■ 「森づくりの担い手確保」のため、下記取り組みアプローチを実践してまいります。

	重要取り組みテーマ	取り組み内容	具体的な取り組み	SDGsとの関連
2-1	森づくりの 担い手育成	林業・林産業及び 山林の魅力発信	- 林業林産業について理解を深めてもらうための、出前授業の実施 - 植樹体験活動の企画 - 学校林を活用した、除伐・枝打ち体験 - 標茶高校森林散策ツアーの企画 - 森林に関する地域コミュニティをつくる - 業界の垣根を超えた「オールしべちゃ」の連携体制の構築 - 観光事業との連携による、プロモーション戦略の展開（森林セラピーや町産材でつくられた薪や木炭で、地元の食材を調理するグランピングコンテンツの提供等） - SNS動画による情報発信	   
2-2		地域おこし協力隊との 連携強化	- 農業・観光分野で活動している地域おこし協力隊に林業・林産業分野にも興味を持ってもらい、兼業的に取り組んでもらう。 - 地域おこし協力隊と連携した、標茶町森林の魅力発信活動の実施 - 地域おこし協力隊が任期満了後も地域に根付くための仕組みの構築	
2-3		林政・林業DXの推進	- ドローン等レーザー測量技術を活用した業務効率化の模索 - 林政・林業効率化や知見の蓄積・継承を目的とした、システムの導入 - 高性能林業機械の導入	



- 「森林の防災機能強化」のため、下記取り組みアプローチを実践してまいります。

	重要取り組みテーマ	取り組み内容	具体的な取り組み	SDGsとの関連
3-1	森林の 防災機能強化	・ 標茶町森林整備計画に基づく森林施業の徹底 ・ 森林の果たす水源涵養や防災機能に関する教育活動の推進		 4 質の高い教育を みんなに  8 働きがいも 経済成長も  11 住み続けられる まちづくりを  15 陸の豊かさも 守ろう



- 「生物多様性保全」、「森林のCO2吸収量最大化」、「水質の保全」のため、下記取り組みアプローチを実践してまいります。

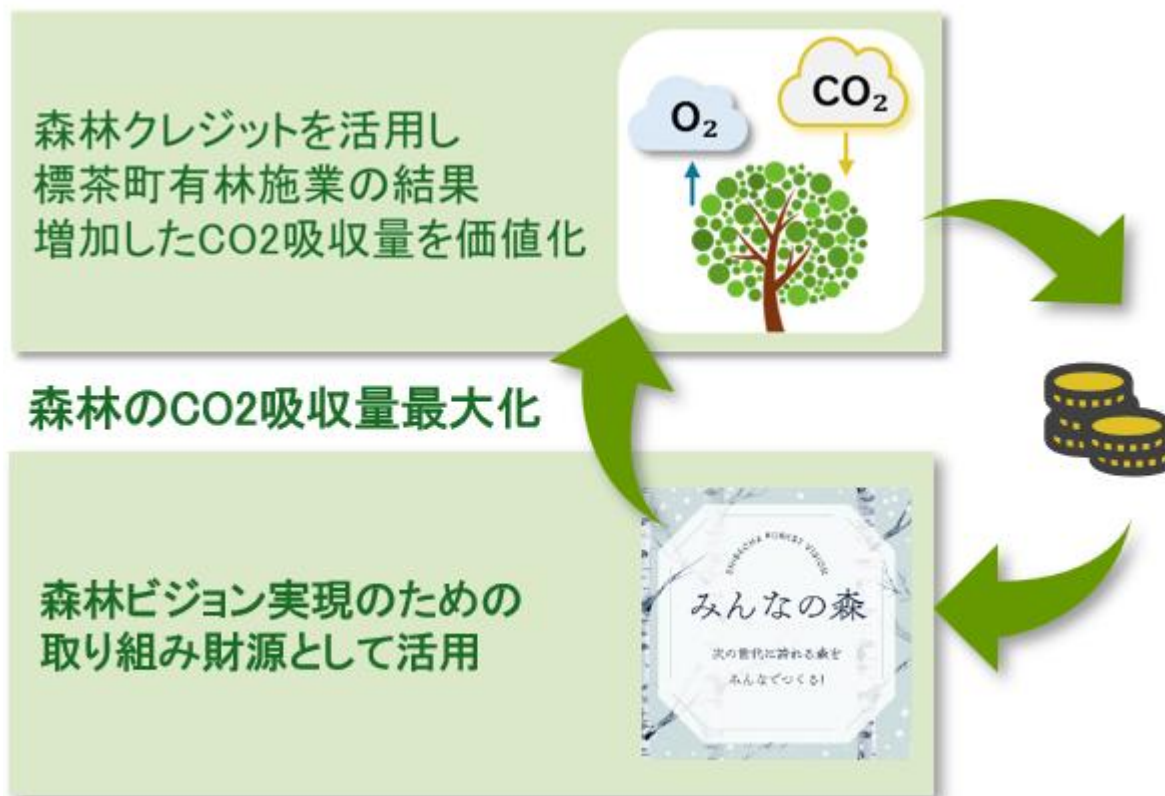
	重要取り組みテーマ	取り組み内容	具体的な取り組み	SDGsとの関連
4-1	生物多様性保全	- 生物多様性ゾーニングに基づく森林施業の実施 - 地域の人たちに森林の果たす役割について知ってもらう環境教育イベントの実施		   
5-1	森林のCO2吸収量 最大化	森林の若返りを進める計画的な森林施業展開		
6-1	水質の保全	野生生物の生息域や、水質保全を目的とした、河川周辺の植林実施		

- 標茶町は、森林クレジットを通じて道内外の企業とのつながりを深めるとともに、森林クレジット販売により生まれた収益を、持続可能な森林管理を実現し、森林ビジョンを実現するための取り組みの財源として活用致します。

● 森林クレジットとは

森林が成長の過程で吸収するCO₂量のうち、人の手が加わった(間伐や下刈等、森林の成長を促すための適切な手入れがされた)事で増加した上澄み分を、価値に変換したものです。

森林クレジットは、カーボンニュートラル実現を目標として省エネ・再エネ等に取り組む企業が、削減しきれなかったCO₂排出量を相殺する目的で購入します。





I. はじめに

- ① 森林ビジョン策定の目的 P.3
- ② 森林ビジョン検討委員会概要 P.4
- ③ 実施スケジュール P.5

II. 森林基礎調査概要

- ① 標茶町森林の現状 P.7
- ② 標茶町林産業の現状 P.51
- ③ インタビュー結果概要 P.60
- ④ 現状の課題と進むべき方向性 P.65

III. 第1回森林ビジョン討議会概要 P.67

IV. 第2回森林ビジョン討議会概要 P.69

V. 第3回森林ビジョン討議会概要 P.71

VI. 標茶町森林ビジョン P.78

VII. 用語集 P.86





	ページ	用語	解説
1	P3	ステークホルダー	地域の木材加工事業者・森林組合・種苗業者・森林管理事業者・教育機関・高校生等、標茶町の持続可能な森林管理の実現に直接的または間接的に影響を与える利害関係者のこと。
2	P8	人工林	人が木材生産を目的として、苗木を植え、手入れを行い育てている森林。
3	P8	天然林	自然の力によって芽生え、育った森林。
4	P8	国有林	林野庁をはじめとする国の機関が所有する森林。
5	P8	民有林	個人や企業、都道府県、市町村などが所有する森林。
6	P8	公有林	民有林のうち、都道府県、市町村などが所有する森林。
7	P8	私有林	民有林のうち、個人や企業が所有する森林。
8	P8	道有林	民有林のうち、北海道が所有する森林。
9	P8	市町村有林	市町村が所有する森林。
10	P10	皆伐	森林の一定範囲の樹木を一度に全部または大部分を伐採する方法。
11	P14	再造林	伐採後の森林に再び苗木を植え、森林を再生させること。
12	P16	標準伐期	森林が最も効率よく成長する期間を基に、地域別の計画で定められる伐採の目安。
13	P16	齢級	樹木の年齢幅を表す単位。1齢級は1～5年生、10齢級は46～50年生。





	ページ	用語	解説
14	P23	森林組合	森林資源を有効活用し、森林の保全と地域社会の発展を両立させることを目的に、森林所有者が出資をして設立した組織のこと。森林所有者から委託をうけ森林整備を行い、地域における持続可能な森林管理に貢献している。
15	P26	プラネタリーバウンダリー	地球環境が安定した状態を保てる限界の範囲を示した9項目。9項目のうち気候変動や生物多様性の喪失といった6項目が限界を超えている状態にある。
16	P31	30by30	2030年までに地球の陸地や海域の少なくとも30%を保全・保護することを目指す国際的な目標のこと。
17	P37	カーボンニュートラル	地球温暖化の原因となるCO2をはじめとする温室効果ガス（GHG）排出量と吸収・除去量を差し引いて実質ゼロを実現する取り組みのこと。
18	P38	GHG	CO2をはじめとする温室効果ガスのこと。Greenhouse Gasの略称
19	P40	パリ協定	2015年12月にフランス・パリで開催された国際気候変動枠組条約第21回締約国会議（COP21）で採択された、気候変動問題に関する国際的な枠組みのこと。
20	P45	森林クレジット	適切な森林管理や植林活動によって増加した、森林が吸収するCO2量を国が認証し、取引可能な価値として活用できる制度のこと。
21	P45	J-クレジット制度	省エネルギー設備導入や再生可能エネルギーの利用によるCO2等の排出削減量や、適切な森林管理によるCO2の吸収量を「クレジット」として国が認証する制度のこと。





	ページ	用語	解説
22	P44	地拵え	伐採後に取り残された木の根や枝などを整理して新たな苗を植栽できるように土地を整理する作業のこと。
23	P44	植栽	苗畑や施設で育てた苗木を造林地に植え付ける作業のこと。
24	P44	下刈	植栽した苗木が健やかに育つように、下層部に生える雑草や雑木を除去する作業のこと。
25	P44	間伐	木々の成長を阻害しないよう、混みあって生えている木の一部を伐採する作業のこと。
26	P56	林道	森林の整備や木材の搬出など林業活動のために設けられた専用道路のこと。
27	P57	林業DX	AIなどのデジタル技術を活用して、森林管理や林業作業の効率化を図る取り組みのこと。
28	P61	木質バイオマス発電	間伐材や木質ペレット等の木材由来のバイオマスを燃料として利用し、電気を生成すること。
29	P73	未立木地	未立木地とは、無立木地（樹木がほとんど生えていない林地）のうち、伐採跡地を除いた林地で、将来的に森林として管理・造林されることが妥当とされる土地のこと。

